

子育て中の母親の外出時等に関するアンケート
報告書

2004・12

ADK

■目次

■調査概要	1
対象者プロフィール①	2
対象者プロフィール②	3
対象者プロフィール③	4
1. 母親の外出積極性	5
2. 外出の行動要因と阻害要因	6
3. 外出中に感じる不安・困難	7
3-1. 都市部・地方部の違い	8
4. 外出中に遭遇した危険や困難	9
4-1. 都市部・地方部の違い	10
5. 外出時の移動手段	11
6. 外出頻度	12
6-1. 層別の月あたり外出日数	13
7. 妊娠中や子供連れで「よく行くところ」「行けないところ」	14
7-1. 「よく行くところ」—層別	15
7-2. 「行けないところ」—層別	16
7-3. 「行けないところ」の主な理由	17
8. 外出中の楽しかった体験	18
9. 外出中に困ること、周囲に手助けしてもらいたいこと	19
10. 子育てに対する周囲や社会の意識への要望	20
11. 困った時の対処の仕方	21
12. 妊娠中、気遣ってほしいこと	22
13-1. マタニティマーク—認知度と見かけた経験の有無	23
13-2. マタニティマーク—自身での利用経験と使用効果	24
13-3. マタニティマークについての考え方	25
13-4. マタニティマークの利用意向	26
13-5. あったらよいと思うマタニティマークの形状	27
14. 周囲や世間の人々に対する考え方	28
14-1. 周囲や世間の人々に対する考え方—層別（そう思う・計）	29
■クラスター分析編	30
■結果のまとめと問題点の整理	39

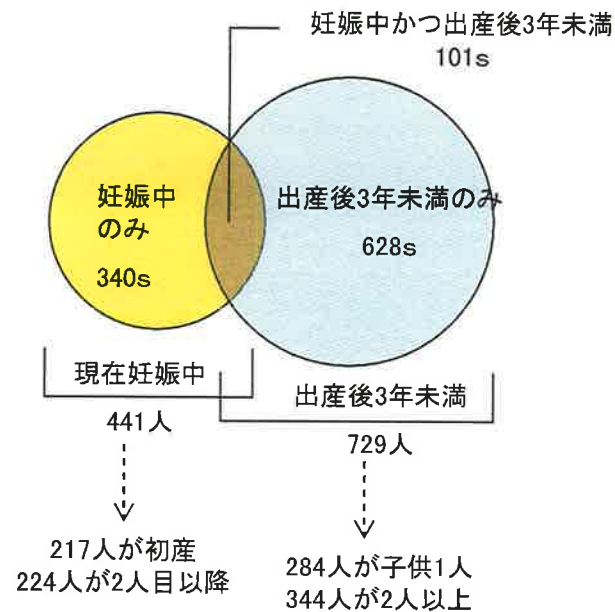
■調査概要

- 調査の目的 : 現在妊娠中もしくは3歳未満の子供を子育て中の母親を対象に、子育てを取り巻く社会に対する考え方、外出の実態、外出時の不安や困難などを聴取し、子育てに関する社会啓蒙活動の必要性や、具体的な支援策における優先事項・重要事項を把握することを目的とする。
- 調査方法 : インターネット調査(ADKインターネットリサーチシステムKnots)
- 調査エリア : 全国
- 対象者条件 : 18歳～49歳既婚女性で、妊娠中もしくは出産後3年未満の方
- 有効回収数 : 1069サンプル
[内訳]
 - 妊娠中 340s
 - 出産後3年未満 628s
 - 妊娠中かつ出産後3年未満 101s
- 調査期間 : 2004年 11月22～23日
- 集計・分析方法 : クロス集計／因子分析・クラスター分析

■対象者プロフィール①

N=1069

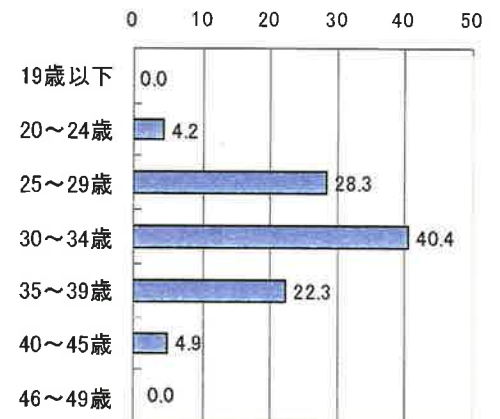
[対象者の内訳]



今回対象者中、現在妊娠中
の人は441人、出産後3年未満
の人は729人で出産後の人の方が多い。このうち、現在妊娠
中でもある人は101人

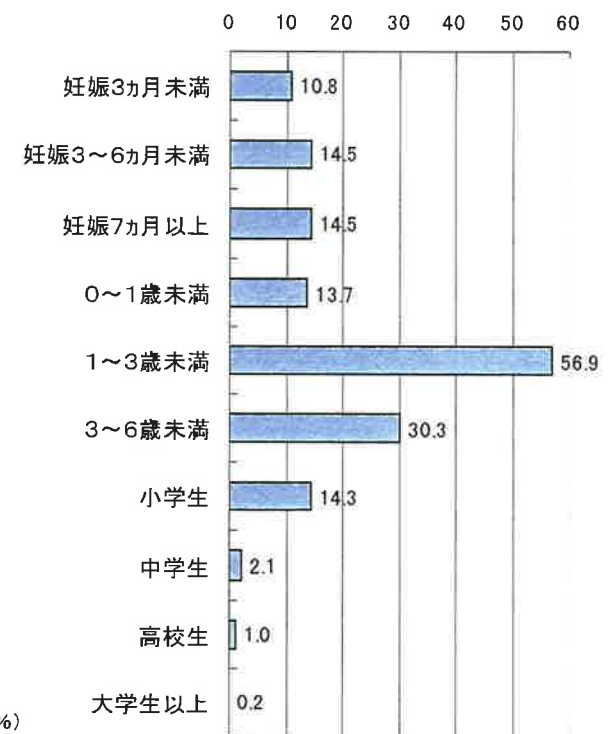
子供の数は20代では6割が1人
だが、40代では4割が3人以上。
年代が上がれば上がるほど多い
傾向にある

[年齢]



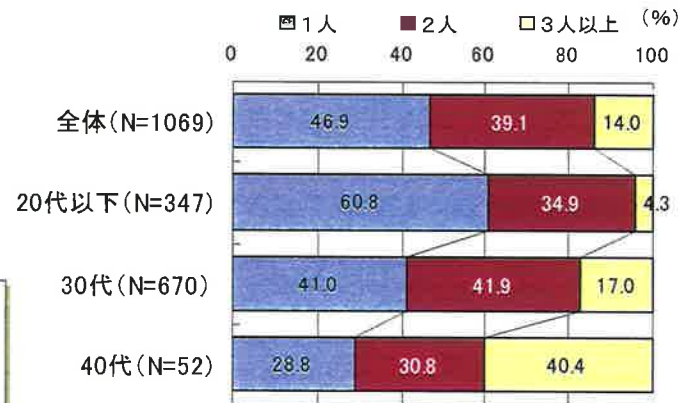
19歳以下、46～49歳の人はい
皆無であった。最も多いのは30代
前半で4割を占める

[子供の年齢]



今回の対象者条件が「妊娠中
もしくは出産後3年未満」のため、最も多いのは1～3歳未満
歳未満の子供を持つ人も3割
いる

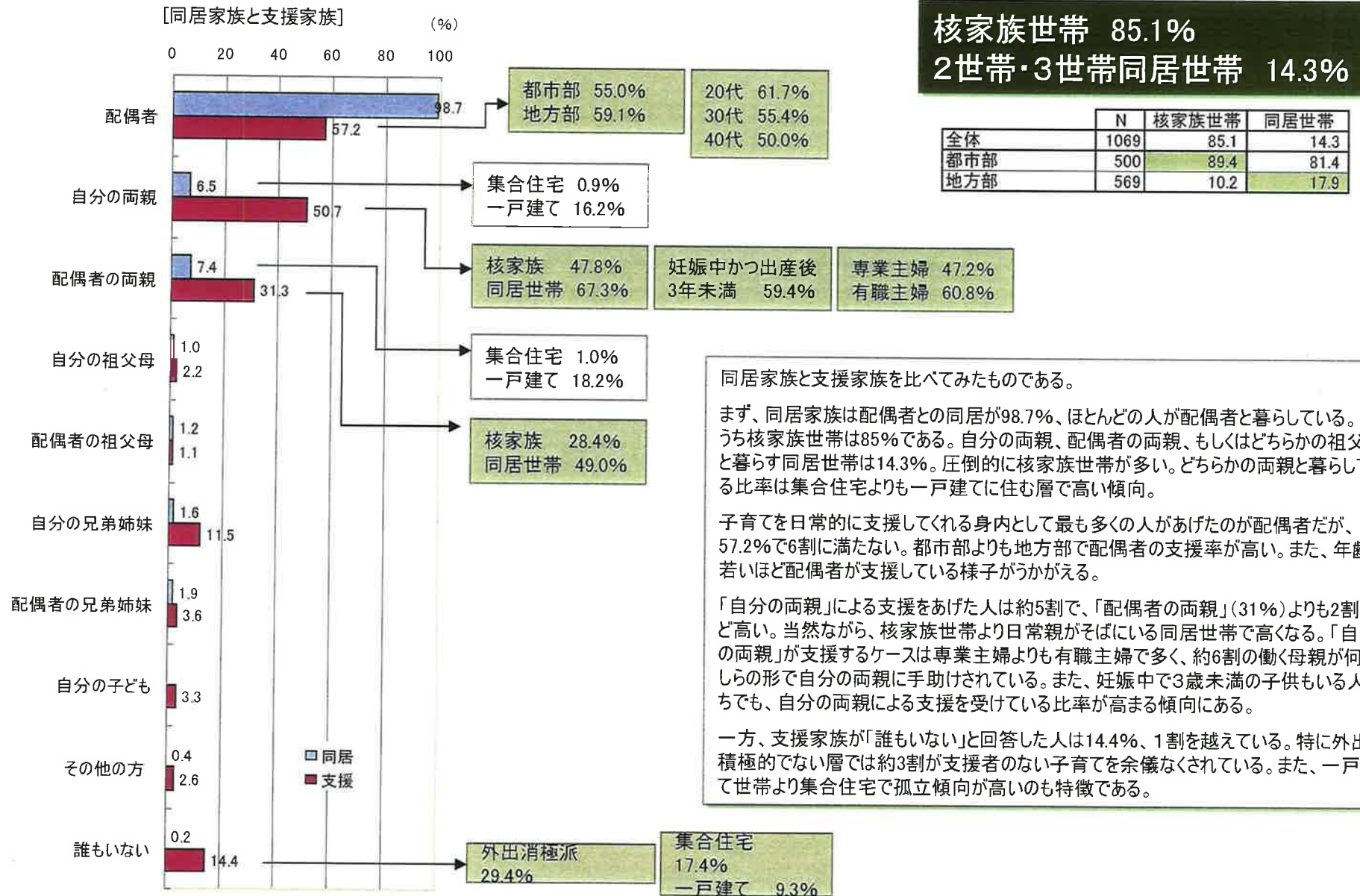
[子供の数]



※妊娠中の子供を含む

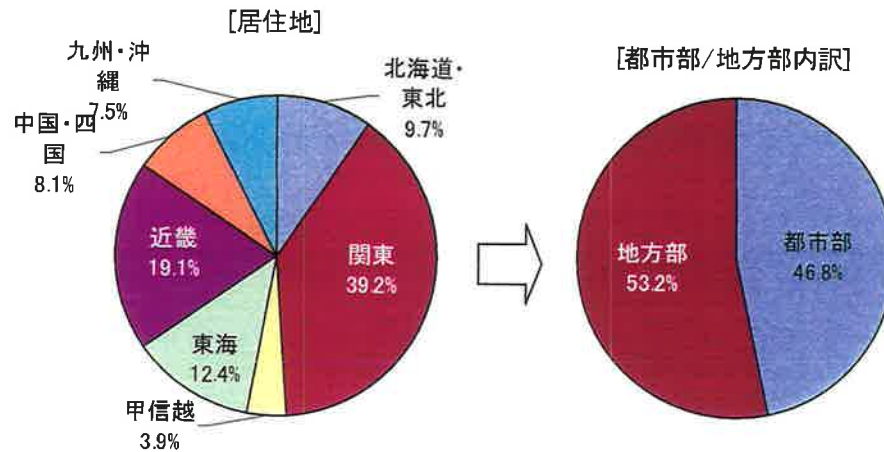
■対象者プロフィール②

N=1069



■対象者プロフィール③

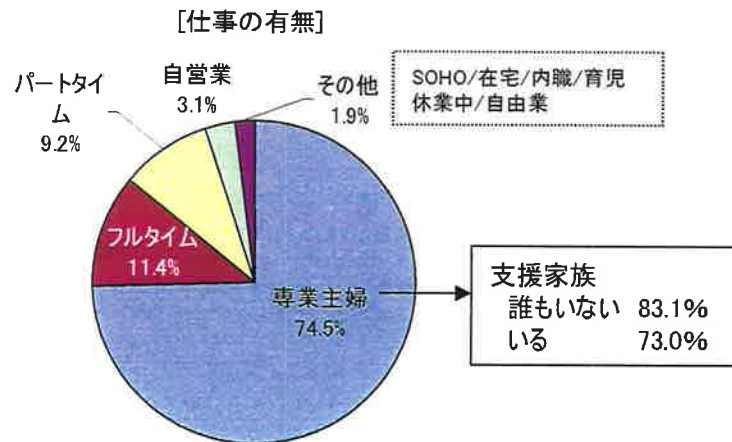
N=1069



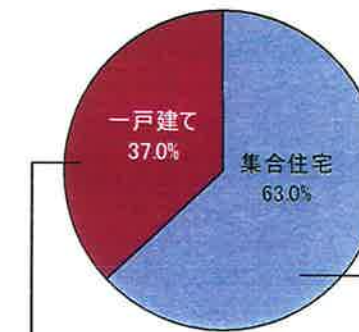
都市部・地方部の考え方

以下の条件にあてはまる市を「都市部」とし、それ以外を「地方部」とする

1. 政令指定都市および東京23区
2. 人口密度が5,000人/平方km以上であり、上記に含まれない東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県の都市



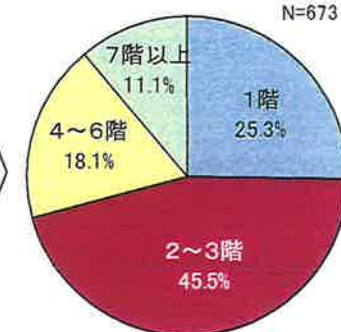
[住居形態]



一戸建てが高い層

40代 50.0%
子供数2人以上 46.0%
同居世帯 90.8%
地方部在住 46.6%

[集合住宅—階数]



集合住宅が高い層

子供数1人 73.1%
核家族世帯 72.0%
都市部在住 73.8%
支援家族なし 76.0%

- ・居住地は関東が最も多く約4割、次いで近畿地区19%。都市部と地方部の内訳はほぼ半々で、やや地方部在住者が多い
- ・住居形態については、集合住宅が63%で一戸建てを大きく上回っている。子育て世帯であり、ライフステージが若いため、通常より集合住宅比率が高いといえる。特に、子供が一人の人、核家族世帯、都市部、支援家族がない層で、集合住宅比率が高い。逆に一戸建ては40代、子供2人以上、同居世帯、地方部在住の層で高まる。また、集合住宅のうち、1～3階に住む人が約7割を占め、高層住宅に住む人は少ない
- ・仕事の状況については、子育て中の人を対象者ということもあり、専業主婦が75%で圧倒的に多い。支援家族が誰もいないと答えた人たちで特に専業主婦率が高く、専業主婦ほど孤立化しやすい傾向がうかがえる

1. 母親の外出積極性

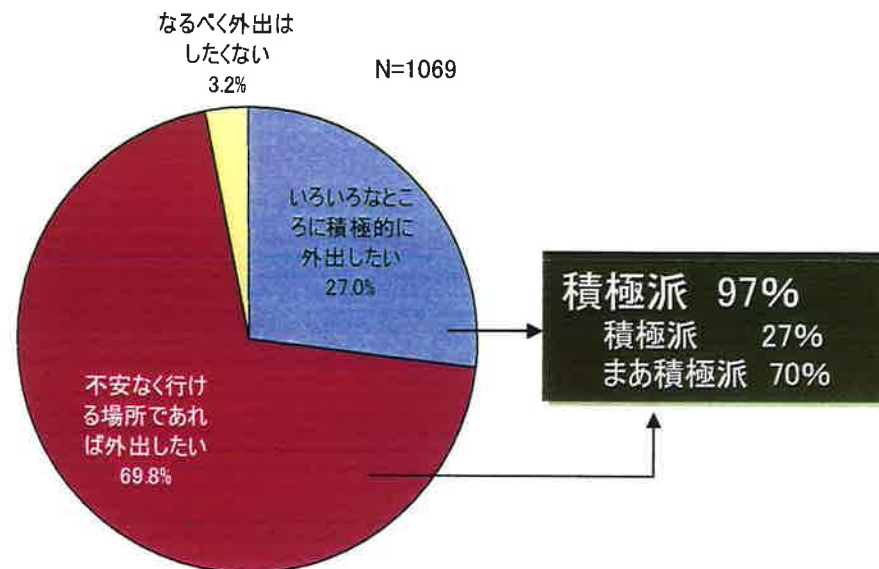
■子供連れや妊娠中の外出について、あなた自身どうお考えですか？

外出積極派が97%

まず、母親自身が外出に対してどう考えているかの基本意識を聞いたものである。

「いろいろなところに積極的に外出したい」が27%、3割近くが非常なアクティブ志向といえる。「不安なく行ける場所であれば外出したい」が最も多く7割。安全であれば外出に対して前向きな人がきわめて多い。

反対に「なるべく外出はしたくない」と答えた人は3%に過ぎずごく少数。ほとんどの母親が外出したいと考えており、3割近くは、妊娠中や子連れでも積極的な外出派だと考えられる

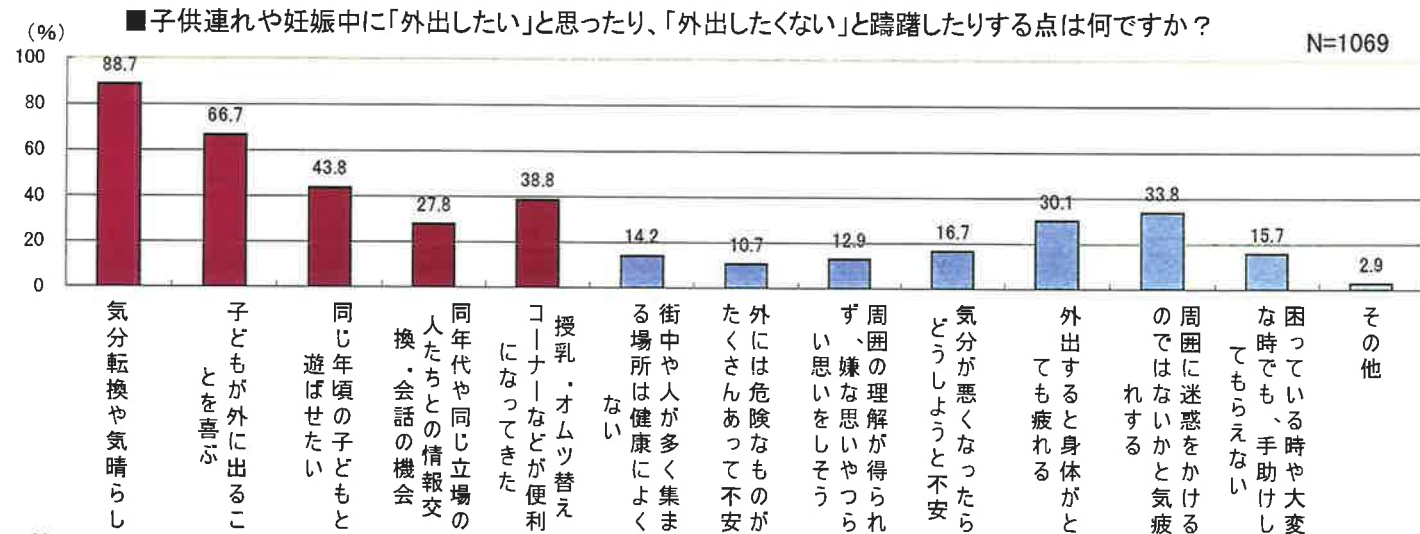


		N	いろいろなところに積極的に外出したい	不安なく行ける場所であれば外出したい	なるべく外出はしたくない
全 体		1069	27.0	69.8	3.2
年代	20代以下	347	31.7	67.1	1.2
	30代	670	25.1	71.3	3.6
	40代	52	21.2	67.3	11.5
子育てステージ	妊娠中	340	25.6	70.3	4.1
	出産後3年未満	628	28.0	69.6	2.4
	妊娠中かつ出産後	101	25.7	69.3	5.0
仕事有無	専業主婦	796	24.7	72.5	2.8
	有職主婦	273	33.7	61.9	4.4
支援家族	誰もいない	154	24.0	69.5	6.5
	いる	915	27.5	69.8	2.6

若い層、有職主婦層がアクティブ

層別の傾向を見ると、若い人ほど外出積極派傾向が強い。また専業主婦より仕事をしている母親の方がアクティブである。一方、外出消極派は40代や支援家族が「誰もいない」でやや高い傾向がみられる

2. 外出の行動要因と阻害要因



N															
年代	20代以下	347	90.2	62.5	38.3	24.8	39.2	12.1	13.5	12.4	19.0	29.7	28.0	17.9	3.2
	30代	670	88.2	69.6	46.4	29.1	39.0	15.1	9.3	13.4	15.7	30.6	36.6	15.1	2.8
	40代	52	84.6	57.7	46.2	30.8	34.6	17.3	9.6	9.6	13.5	26.9	36.5	9.6	1.9
子育て ステージ × 支援 家族有 無	妊娠中/誰もいない	46	89.1	26.1	21.7	23.9	21.7	10.9	6.5	10.9	28.3	26.1	21.7	15.2	4.3
	妊娠中/いる	294	89.1	31.3	23.1	23.8	24.1	15.3	8.8	10.9	33.0	32.0	22.1	10.9	2.4
	出産後/誰もいない	94	81.9	75.5	52.1	27.7	43.6	14.9	12.8	14.9	4.3	37.2	45.7	33.0	5.3
	出産後/いる	534	90.3	84.1	54.3	29.8	47.0	14.8	11.0	13.3	8.4	25.1	39.7	15.2	3.2
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	78.6	71.4	50.0	28.6	21.4	-	7.1	21.4	14.3	21.4	21.4	35.7	-
子供数	妊娠中かつ出産後/いる	87	86.2	90.8	50.6	31.0	44.8	10.3	14.9	14.9	19.5	50.6	32.2	13.8	-
	1人	501	89.8	50.1	36.9	31.3	35.9	16.4	12.6	12.8	22.2	28.1	29.5	16.0	3.6
	2人以上	568	87.7	81.3	49.8	24.6	41.4	12.3	9.0	13.0	11.8	31.9	37.5	15.5	2.3
外出 積極性	積極派	289	94.5	70.9	49.1	35.6	42.2	7.3	5.9	6.6	6.6	13.1	13.8	8.0	3.5
	まあ積極派	746	89.7	67.4	43.2	25.9	38.9	16.6	12.5	15.1	20.6	35.0	40.2	18.5	2.4
	消極派	34	17.6	14.7	11.8	2.9	8.8	20.6	11.8	17.6	14.7	67.6	61.8	20.6	8.8

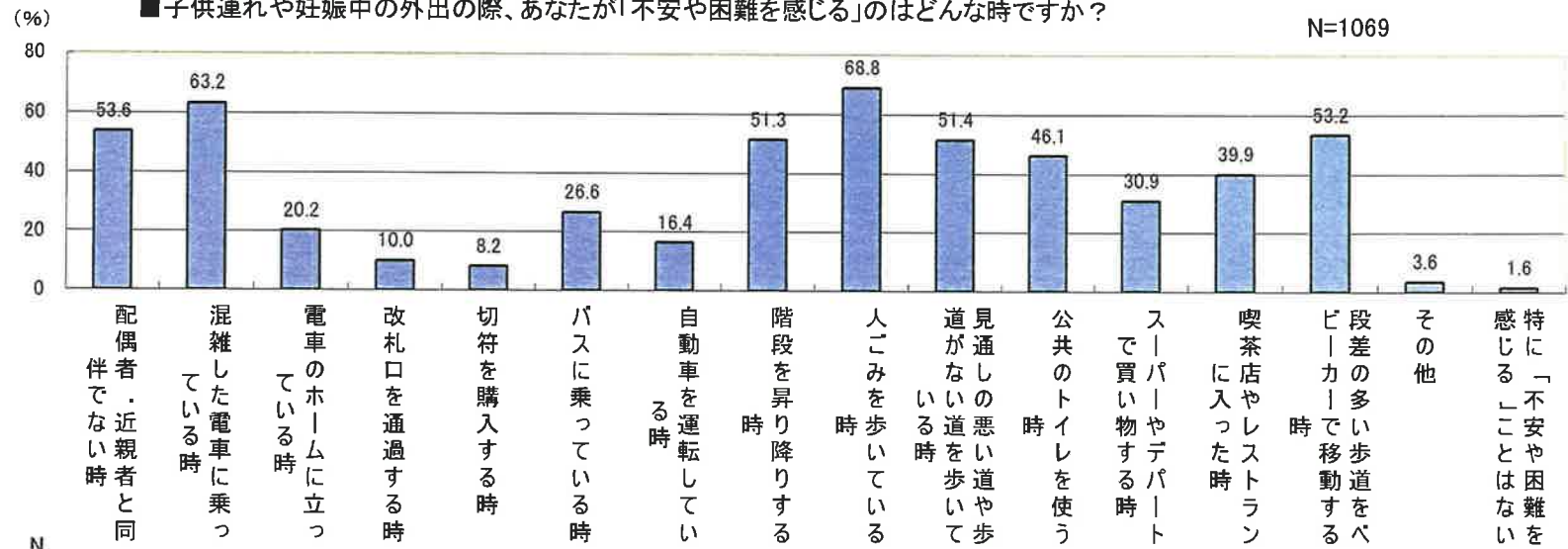
「気疲れ」「身体の疲れ」が2大阻害要因

- ・外出の動機として最も多くあげられたのが、「気分転換・気晴らし」で約9割、子供を外で遊ばせたいという理由よりも高く、母親自身のリフレッシュが第1の行動要因となっている。特に外出積極派で「気分転換・気晴らし」「情報交換・会話の機会」が高く、母親自身の外向的なライフスタイルがうかがえる。また、出産後3年未満の層では、「子供のため」も大きな動機になってくる
- ・「周囲への迷惑による気疲れ」「身体が疲れる」が2大阻害要因。支援家族がいない層では「手助けしてもらえない」「理解が得られず嫌な思いをする」も高い傾向。支援家族がいるかいないかが、外出意識に影響しているとみられる。また、外出消極派層はプラスの動機はきわめて低く、「周囲への迷惑による気疲れ」「身体が疲れる」をあげる人が6割を越えている

3. 外出中に感じる不安・困難

■子供連れや妊娠中の外出の際、あなたが「不安や困難を感じる」のはどんな時ですか？

N=1069



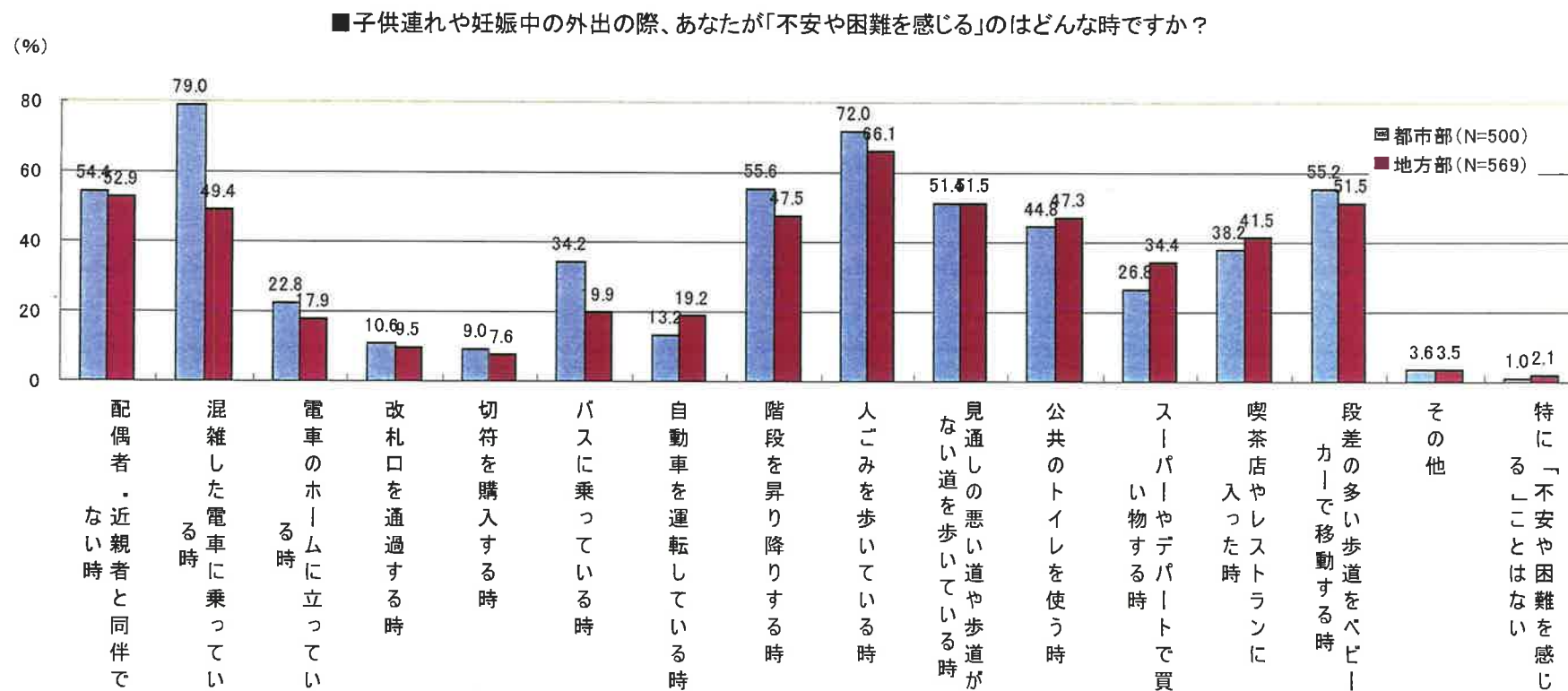
年代		N	53.6	63.2	20.2	10.0	8.2	26.6	16.4	51.3	68.8	51.4	46.1	30.9	39.9	53.2	3.6	1.6
年代	20代以下	347	56.8	61.1	20.5	9.5	8.4	29.1	22.2	53.3	65.7	52.4	45.5	30.0	41.8	51.9	4.0	2.0
	30代	670	52.2	63.7	19.9	10.1	8.1	25.1	12.8	50.3	70.9	51.5	47.0	31.0	39.1	55.1	3.6	1.3
	40代	52	50.0	71.2	23.1	11.5	9.6	28.8	23.1	50.0	63.5	44.2	38.5	34.6	38.5	38.5	-	1.9
子育てステージ×支援家族有無	妊娠中/誰もいない	46	43.5	69.6	15.2	4.3	-	23.9	17.4	58.7	65.2	34.8	37.0	15.2	21.7	32.6	4.3	-
	妊娠中/いる	294	53.4	69.7	19.4	7.5	2.4	19.0	17.3	54.4	62.9	41.8	30.6	20.4	14.3	28.6	3.4	2.0
	出産後/誰もいない	94	52.1	66.0	23.4	11.7	14.9	31.9	12.8	58.5	75.5	55.3	55.3	31.9	55.3	62.8	6.4	1.1
	出産後/いる	534	53.7	59.7	19.3	11.4	10.3	28.8	15.0	46.4	70.2	56.7	53.9	37.1	51.1	65.2	3.4	1.7
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	28.6	50.0	21.4	21.4	21.4	28.6	7.1	50.0	64.3	57.1	50.0	42.9	50.0	57.1	7.1	-
外出積極性	妊娠中かつ出産後/いる	87	64.4	58.6	27.6	9.2	10.3	33.3	26.4	58.6	75.9	55.2	44.8	33.3	49.4	63.2	1.1	1.1
	積極派	289	43.6	65.4	20.8	10.0	9.3	22.8	17.0	45.3	65.7	50.5	46.7	23.5	33.6	55.7	4.2	3.1
	まあ積極派	746	57.2	62.9	20.0	10.2	8.2	28.7	16.5	53.4	70.5	52.3	46.0	32.8	42.4	52.7	3.5	0.9
	消極派	34	58.8	52.9	20.6	5.9	-	11.8	8.8	55.9	58.8	41.2	44.1	50.0	41.2	44.1	-	2.9

人の多い混んだ場所が最も不安・困難

・外出中に不安や困難を感じる具体的なシーンをあげてもらった。多くの人があげたのが「人ごみを歩く時」、次いで「混んだ電車に乗っている時」でいずれも6割以上。妊娠中や子連れの外出にとって、混み合った状況が最も困難であると考えられる。「同伴者がいない」「段差が多い歩道のベビーカー移動」「見通しの悪い道・歩道のない道」「階段の上り下り」も5割を超える人があげている

・また、出産後3年未満の子供を持つ層では「段差の多い歩道でのベビーカー移動」「喫茶店やレストラン」が特に高い傾向がみられる

3-1. 外出中に感じる不安・困難—都市部・地方部の違い

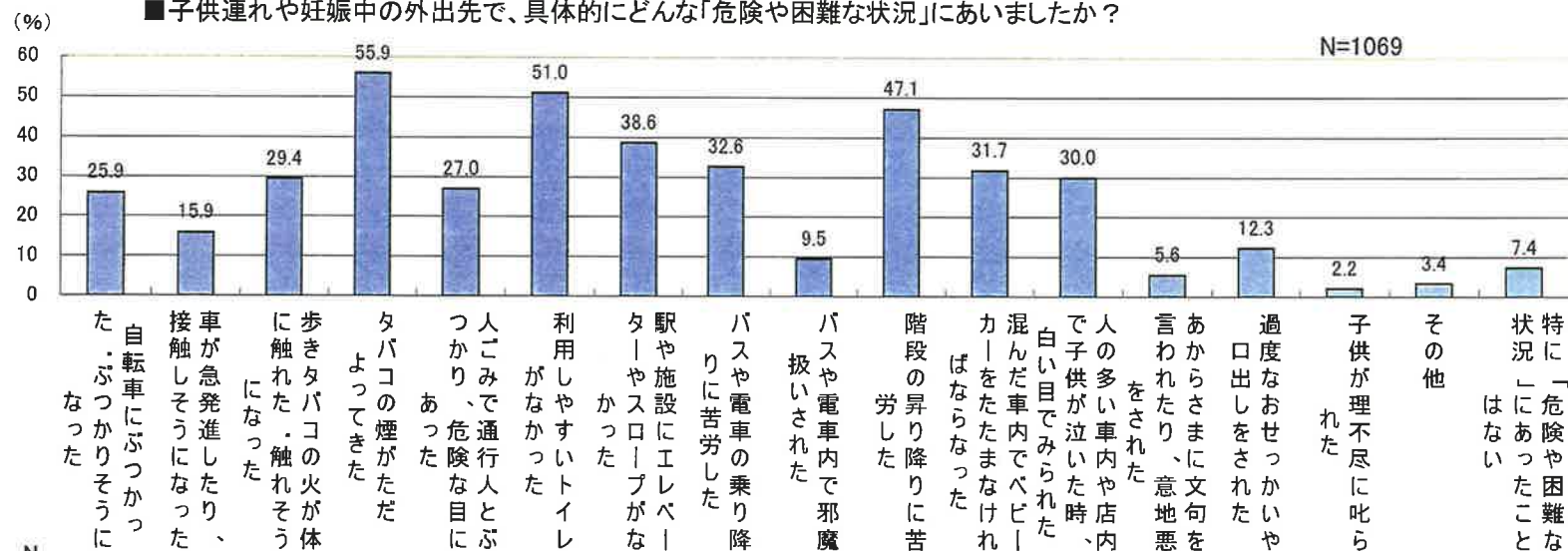


混雑した状況、公共交通機関の利用時の困難さは都市部で深刻

・外出中に感じる不安・困難を都市部と地方部別にみたものである。顕著に違いがみられるのが「混雑した電車」で、都市部では「人ごみ」よりも高く約8割の人があげている。総じて、混雑した状況や交通機関の利用において、都市部で困難な度合いが強まっている

4. 外出中に遭遇した危険や困難

■子供連れや妊娠中の外出先で、具体的にどんな「危険や困難な状況」にありましたか？



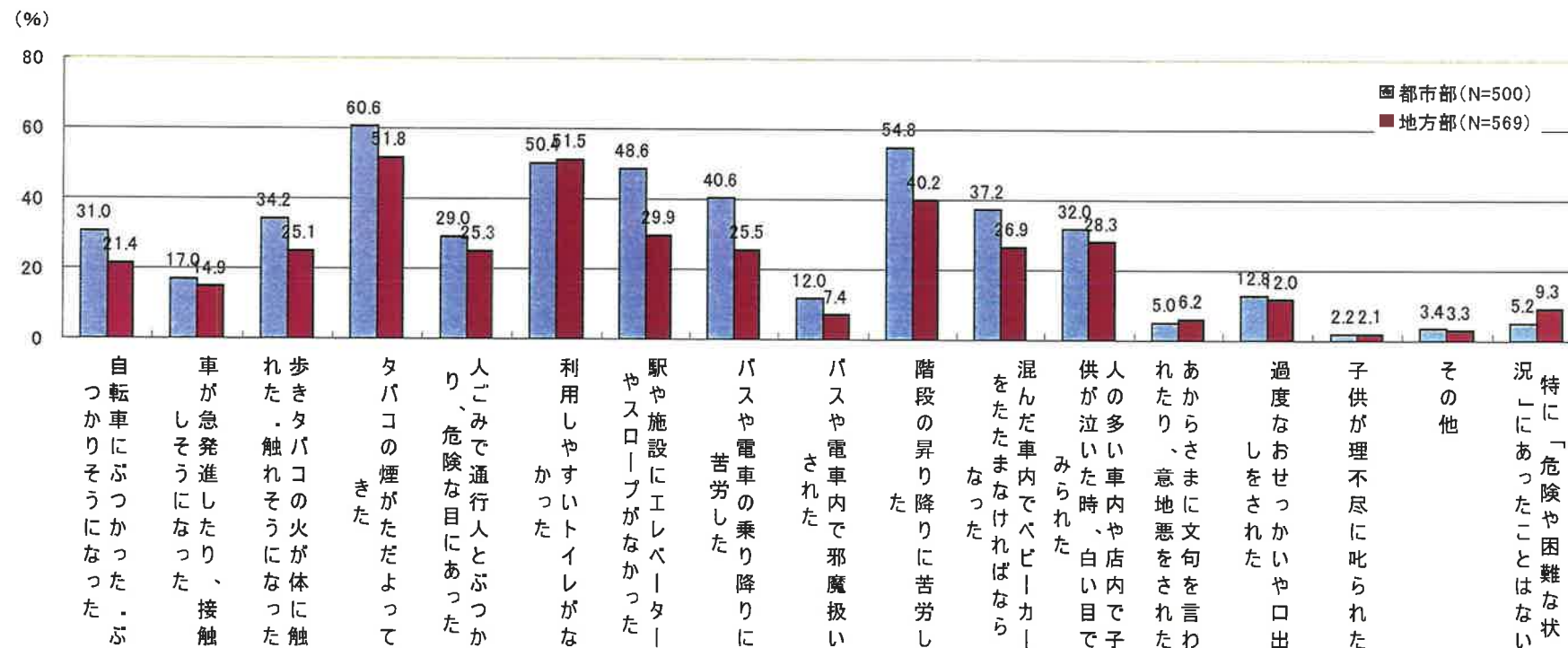
N																			
年代	20代以下	347	26.5	19.6	28.0	57.1	26.5	53.6	40.1	34.3	8.4	49.3	32.0	27.7	6.3	12.7	2.6	2.9	7.8
	30代	670	24.8	14.2	29.9	55.5	27.2	50.1	39.6	31.9	10.0	47.8	31.8	31.6	5.4	13.0	2.1	3.7	6.4
	40代	52	36.5	13.5	32.7	53.8	28.8	44.2	17.3	28.8	11.5	23.1	28.8	25.0	3.8	1.9	-	1.9	17.3
	子育て ステージ ×支援 家族有無	妊娠中/誰もいない	46	32.6	10.9	34.8	60.9	19.6	37.0	13.0	28.3	8.7	32.6	17.4	13.0	2.2	10.9	-	8.7
	妊娠中/いる	294	27.2	13.9	25.5	57.5	25.9	29.9	19.4	17.0	6.5	33.0	14.3	13.9	2.7	6.8	1.7	2.7	11.6
	出産後/誰もいない	94	27.7	19.1	31.9	50.0	35.1	66.0	55.3	56.4	16.0	54.3	40.4	42.6	7.4	14.9	1.1	7.4	2.1
	出産後/いる	534	24.2	16.1	29.6	54.7	24.3	59.4	46.8	36.3	9.4	52.8	38.8	36.7	6.9	13.5	2.2	2.2	6.2
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	28.6	21.4	35.7	57.1	42.9	57.1	50.0	50.0	21.4	50.0	42.9	50.0	14.3	35.7	21.4	7.1	7.1
	妊娠中かつ出産後/いる	87	26.4	19.5	34.5	62.1	40.2	60.9	47.1	35.6	12.6	58.6	43.7	35.6	5.7	18.4	2.3	4.6	2.3
外出 積極性	積極派	289	24.6	15.6	31.8	56.1	24.6	57.1	39.1	32.2	10.0	50.9	36.0	26.0	5.5	11.8	2.8	3.1	8.7
	まあ積極派	746	26.7	16.4	29.0	56.0	28.4	49.2	39.3	33.1	9.2	45.7	30.2	31.1	5.8	12.5	1.9	3.5	6.2
	消極派	34	20.6	8.8	17.6	52.9	17.6	38.2	20.6	23.5	11.8	44.1	29.4	41.2	2.9	14.7	2.9	2.9	23.5

タバコの煙、利用しにくいトイレ、階段の上り下りが困難ベスト3

- ・具体的にどんな危険や困難にあったことがあるかを聞いたものである。ベスト3は「タバコの煙がただよってきた」「利用しやすいトイレがなかった」「階段の上り下り」。「危険や困難な状況にあったことはない」人はわずか7%で、ほとんどの人が外出中に危険や困難を感じた経験がある
- ・層別にみると、3歳未満の子供がいて支援者のいない人たちで「トイレ」「エレベーターやスロープがない」「バスや電車の乗り降り」「子供が泣いた時白い目でみられた」が高くなる傾向にある。また、3歳未満の子連れかつ妊娠中という層では「人ごみの衝突」「ベビーカーをたたむ」が目立って高くなっている

4-1. 外出中に遭遇した危険や困難—都市部・地方部の違い

■ 子供連れや妊娠中の外出先で、具体的にどんな「危険や困難な状況」にありましたか？

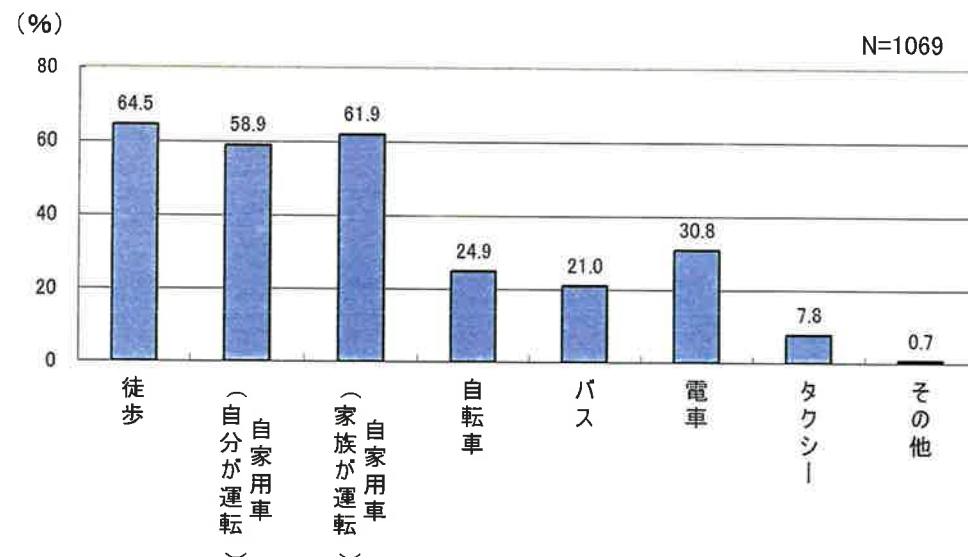


階段の上り下り、エレベーターやスロープがない、バスの乗り降りなど、都市部は危険・困難がいっぱい

・都市部と地方部の違いを見ると、「タバコの煙」「階段の上り下り」「エレベーターやスロープがない」「バスや電車の乗り降り」などで都市部が地方部を大きく上回っている。ほとんどの項目で都市部の方が高い傾向にあり、過密した都市における外出には危険や困難が大きく立ちはだかっていることがわかる

5. 外出時の移動手段

■街中へ外出する際、よく利用する移動手段は何ですか？



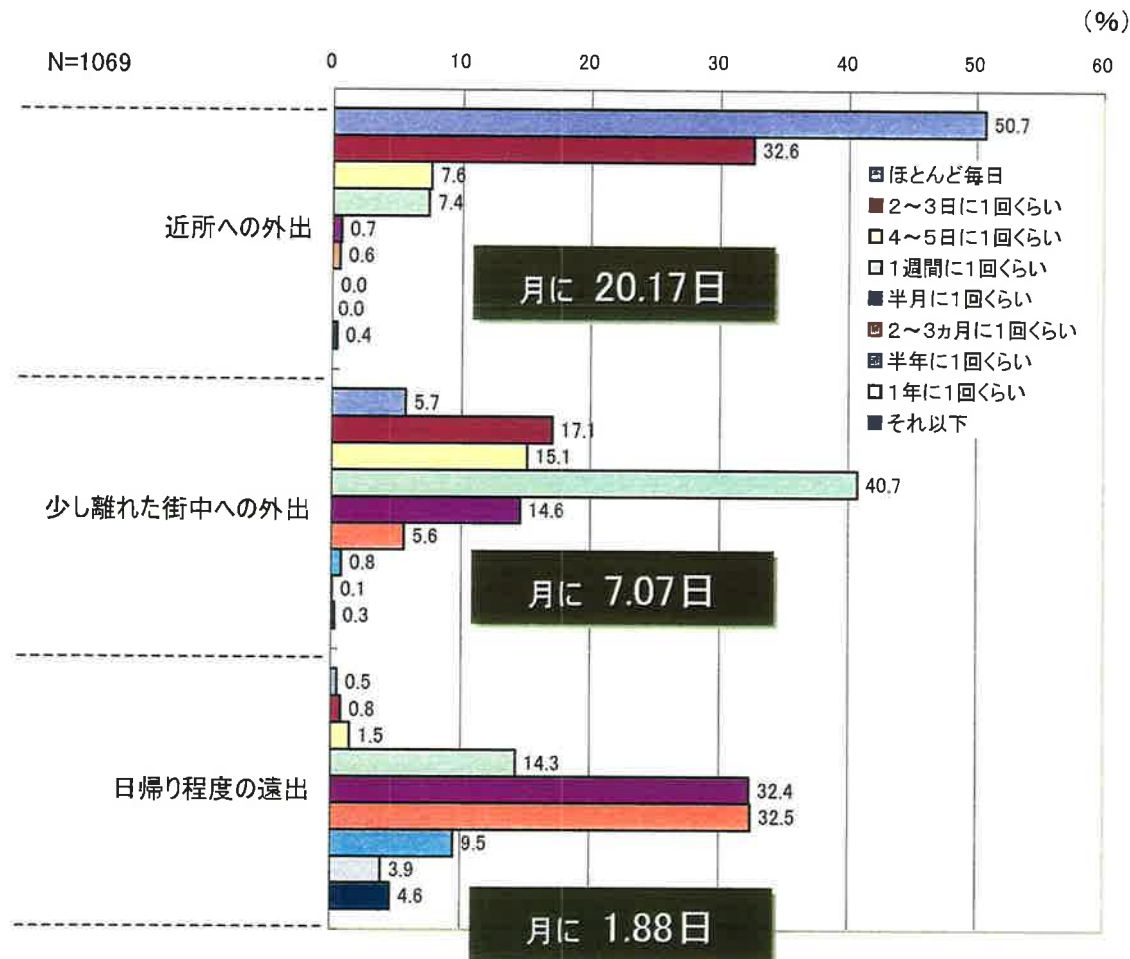
子育て ステージ × 支援 家族有 無	妊娠中/誰もいない	46	69.6	50.0	56.5	8.7	17.4	32.6	6.5	-
	妊娠中/いる	294	66.7	52.0	63.6	12.2	23.5	34.7	7.8	-
	出産後/誰もいない	94	73.4	61.7	61.7	30.9	20.2	40.4	7.4	1.1
	出産後/いる	534	63.1	62.9	60.5	31.6	20.4	28.5	7.9	0.9
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	57.1	50.0	21.4	21.4	21.4	35.7	7.1	-
	妊娠中かつ出産後/いる	87	55.2	60.9	74.7	28.7	18.4	19.5	8.0	1.1
子供数	1人	501	74.5	49.9	63.9	19.8	20.8	35.1	7.4	0.6
	2人以上	568	55.8	66.9	60.2	29.4	21.1	26.9	8.1	0.7
居住 形態	集合住宅	673	70.4	51.3	61.4	27.6	25.4	37.6	9.5	0.7
	一戸建て	396	54.5	62.9	62.9	20.2	13.4	19.2	4.8	0.5
居住地	都市部	500	75.4	42.2	58.2	35.4	28.0	46.8	10.2	1.0
	地方部	569	55.0	73.6	65.2	15.6	14.8	16.7	5.6	0.4
外出 積極性	積極派	289	63.7	65.4	58.5	26.0	21.1	31.5	5.9	1.7
	まあ積極派	746	65.7	56.4	63.1	24.9	21.2	31.1	8.6	0.3
	消極派	34	47.1	58.8	64.7	14.7	14.7	17.6	5.9	-

徒歩、自家用車が日常手段 公共交通機関は都市部で高い

- ・街中への外出の際に利用する移動手段を聞いた。「徒歩」「自家用車」が多く、半数以上の人たちが徒歩や車を日常的な移動手段としている
- ・妊娠中や子連れ外出にとって困難の多い公共交通機関の利用は電車が約3割、バスが約2割。ただし、都市部になると電車は46.8%と半数近くが日常的に利用している
- ・徒歩や自転車も都市部で高い
- ・自分で車を運転して外出する人は一戸建て層と地方部で高くなるが、車の保有率と関係しているとみられる
- ・外出積極派で自家用車(自分で運転)比率が高いほか、自転車や電車の利用も高まる傾向にある

6. 外出頻度

■ 子供連れや妊娠中の外出は、どのくらいの頻度ですか？



近所への外出はほぼ毎日 50%

- ・外出頻度を「歩いていける近所」「少し離れた街中」「日帰り程度の遠出」の3段階で聞いたものである
- ・歩いていける近所への外出は、「ほとんど毎日」と回答した人が5割、「2～3日に1回」を含めると8割以上が頻繁に外出している。それぞれの回答を「月あたり日数」に換算して平均すると、月に20日ぐらいは外出していることになる
- ・少し離れた街中になると、「1週間に1回」ペースが4割で突出して高い。月あたり日数は約7日
- ・日帰り程度の遠出になるとさらに減り、月に2日弱程度の頻度になる

[注]

平均日数はそれぞれの選択肢の中間をとり、それを月あたりの日数としてウェイトをかけて算出した。

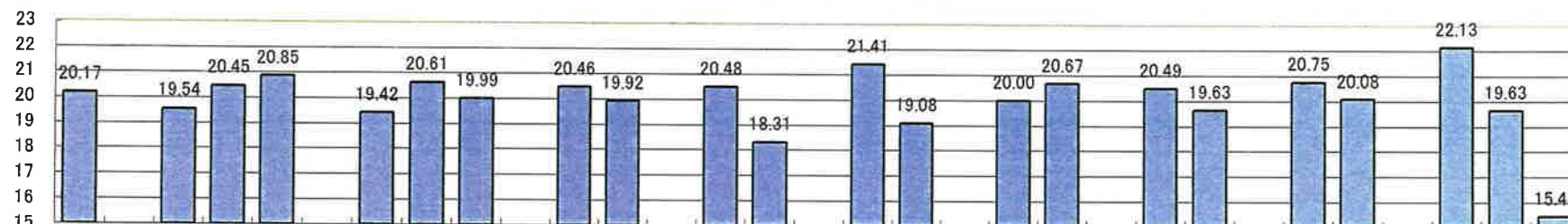
例)「ほとんど毎日」=30日／「2～3日に1回」=12.5日

「それ以下」については0.01とした

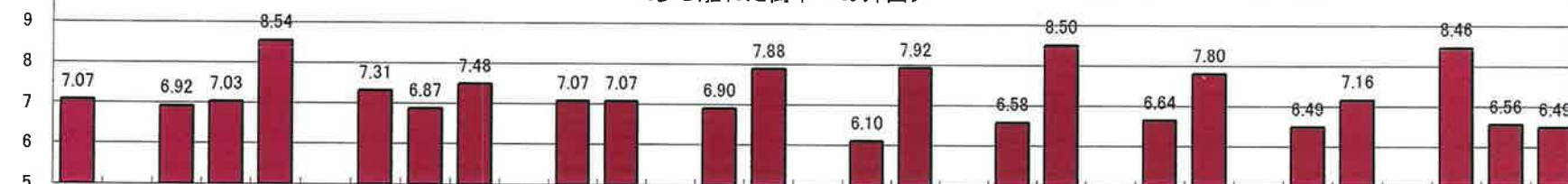
6-1. 外出頻度—層別の月あたり外出日数

(日)

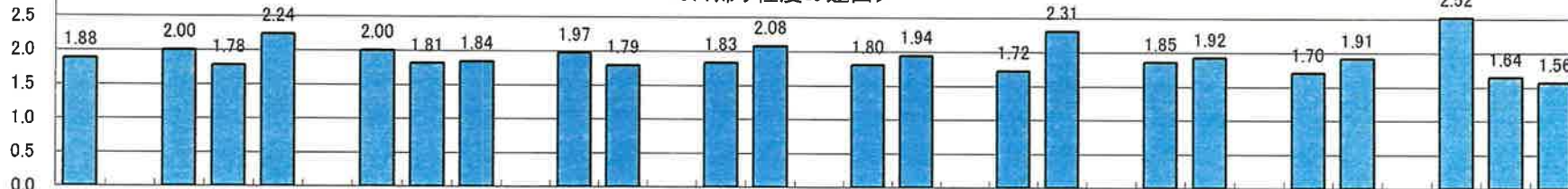
<近所への外出(歩いていける範囲)>



<少し離れた街中への外出>



<日帰り程度の遠出>



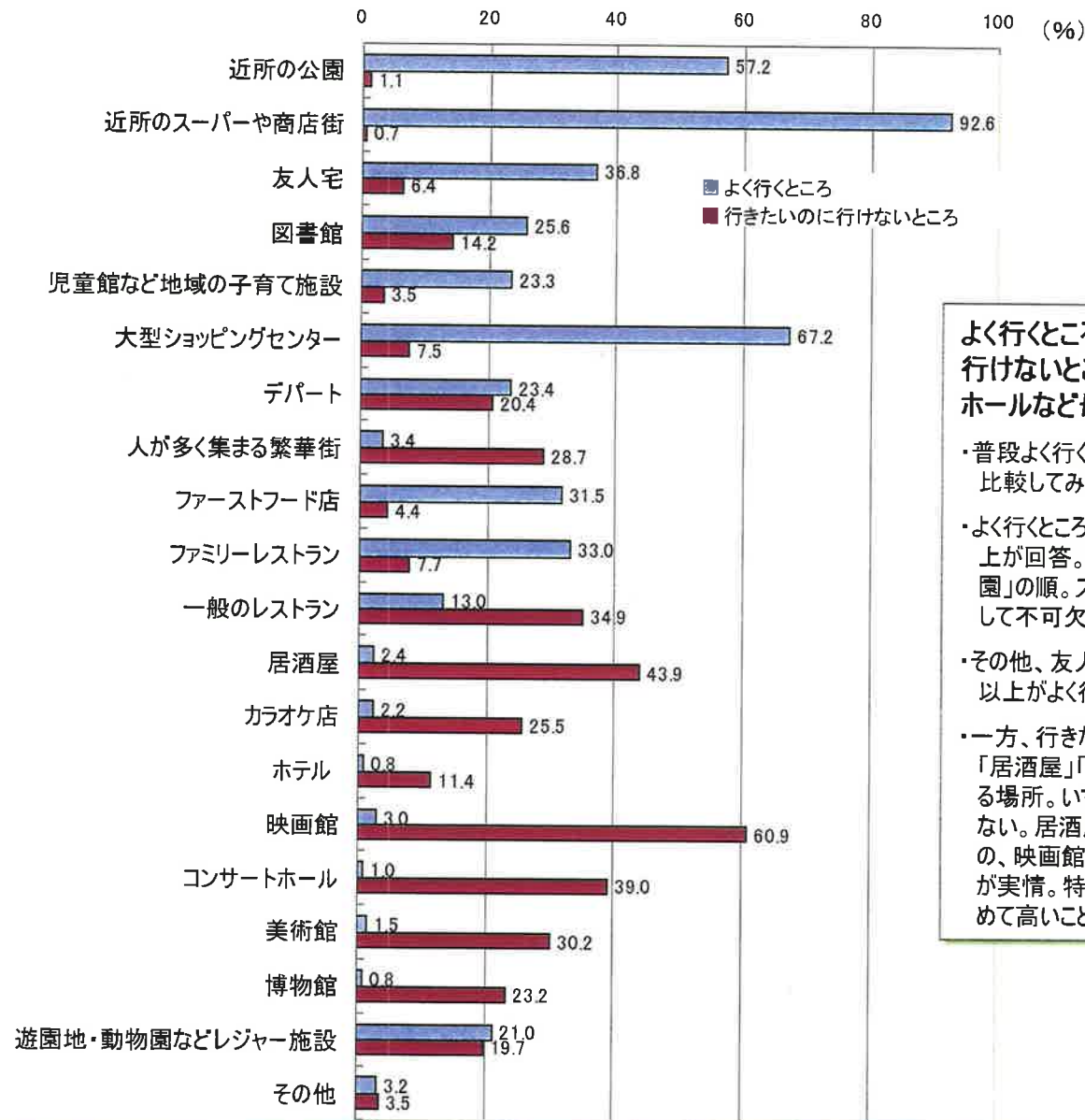
核家族、都市部、支援家族なしの人たちは街中への外出や遠出は少なくなる。また専業主婦より有職主婦の方が外出頻度が高い

- ・層別の外出頻度の違いを、月あたり日数で比較してみたものである。まず年代別には40代で頻度が高まるが、年代があがるほど子供が大きくなるため外出機会が多くなると考えられる。次に核家族世帯は近所への外出が高く、街中や遠出は同居世帯で多い。同居世帯は一戸建て比率が高く、車の保有率も高まるためと推測される
- ・都市部・地方部での違いは、都市部で近所への外出、地方部で街中への外出が多い。さらに専業主婦より有職主婦の方が外出頻度が高いことも注目に値する。また、支援家族がいない場合は近所への外出、いる場合は街中や遠出頻度が高まることも示唆的である。外出積極派では明らかに外出日数が多くなっている

7. 妊娠中や子供連れで「よく行くところ」「行けないところ」

■ 子供連れや妊娠中の外出先で、普段よく行くところはどこですか？／行きたいのになかなか行けないところはどこですか？

N=1069



**よく行くところは日常の買い物場所。
行けないところは映画館、居酒屋、コンサート
ホールなど母親の息抜きとなる場所**

・普段よく行くところと、行きたいのになかなか行けないところを比較してみたものである。

・よく行くところのトップは「近所のスーパー・商店街」で9割以上が回答。次いで「大型ショッピングセンター」「近所の公園」の順。スーパーやショッピングセンターは日常の買い物として不可欠な用事であり、必然的に高くなる

・その他、友人宅やファミレス、ファーストフード店なども3割以上がよく行くところとしてあげている

・一方、行きたいのに行けないところのトップ3は「映画館」「居酒屋」「コンサートホール」といった母親自身の娯楽となる場所。いずれもよく行くところとしてあげた人はほとんどいない。居酒屋はファミリー歓迎のところも増えてはいるものの、映画館やコンサートホールはまだ子連れは不可能なのが実情。特に映画館は6割以上が回答し、ニーズはきわめて高いことがわかる

7-1. 妊娠中や子供連れで「よく行くところ」—層別

■子供連れや妊娠中の外出先で、普段よく行くところはどこですか？

(%)

		N	近所の公園	近所のスーパーや商店街	友人宅	図書館	地域の子育て施設	大型ショッピングセンター	デパート	繁華街	ファーストフード店	ファミリーレストラン	一般的なレストラン	居酒屋	カラオケ店	ホテル	映画館	ホール	コンサート	美術館	博物館	レジャー施設	その他
全 体		1069	57.2	92.6	36.8	25.6	23.3	67.2	23.4	3.4	31.5	33.0	13.0	2.4	2.2	0.8	3.0	1.0	1.5	0.8	21.0	3.2	
年代	20代以下	347	54.8	94.2	34.6	23.1	19.6	67.4	27.4	4.9	30.0	31.4	17.6	5.2	4.3	0.9	3.5	0.9	2.0	0.9	18.7	2.9	
	30代	670	59.1	91.9	37.6	26.4	25.1	67.0	21.5	2.2	33.0	33.0	10.6	1.2	1.0	0.9	2.5	1.2	1.0	0.7	21.6	3.6	
	40代	52	48.1	90.4	40.4	32.7	25.0	67.3	21.2	7.7	23.1	44.2	13.5	-	1.9	-	5.8	-	3.8	1.9	26.9	-	
子育てステージ×支援家族有無	妊娠中/誰もいない	46	26.1	91.3	28.3	28.3	6.5	65.2	21.7	6.5	21.7	34.8	10.9	-	2.2	-	2.2	4.3	2.2	-	17.4	-	
	妊娠中/いる	294	32.3	92.2	30.3	26.2	8.5	61.6	28.9	4.8	22.8	31.0	21.8	4.8	4.1	1.4	8.5	1.7	4.1	1.7	9.5	2.7	
	出産後/誰もいない	94	66.0	90.4	34.0	40.4	34.0	71.3	21.3	-	29.8	38.3	6.4	2.1	1.1	-	1.1	1.1	-	-	23.4	3.2	
	出産後/いる	534	70.0	93.1	41.0	22.7	28.5	71.0	21.9	2.8	36.5	34.1	9.9	1.7	1.7	0.7	0.7	0.4	0.4	0.7	28.3	3.6	
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	42.9	85.7	28.6	42.9	21.4	57.1	21.4	7.1	21.4	14.3	-	-	-	7.1	-	-	-	-	14.3	-	
	妊娠中かつ出産後/いる	87	71.3	95.4	41.4	21.8	39.1	60.9	17.2	3.4	39.1	29.9	12.6	1.1	-	-	1.1	1.1	1.1	-	14.9	4.6	
子供数	1人	501	46.7	92.8	33.3	23.0	20.4	63.1	28.1	4.4	21.4	27.5	17.2	3.0	2.4	1.2	3.6	1.0	2.4	1.0	12.8	2.6	
	2人以上	568	66.4	92.4	39.8	28.0	25.9	70.8	19.2	2.5	40.5	37.9	9.3	1.9	1.9	0.5	2.5	1.1	0.7	0.7	28.2	3.7	
居住地	都市部	500	58.4	92.8	34.4	22.6	22.6	63.2	28.6	3.8	29.8	34.2	12.0	2.2	1.2	0.8	3.2	1.2	1.8	0.8	19.0	3.6	
	地方部	569	56.1	92.4	38.8	28.3	23.9	70.7	18.8	3.0	33.0	32.0	13.9	2.6	3.0	0.9	2.8	0.9	1.2	0.9	22.7	2.8	
外出積極性	積極派	289	60.2	91.7	41.5	29.1	27.3	69.6	29.1	7.3	31.5	35.6	16.6	4.5	3.5	2.4	5.2	1.7	2.8	2.8	28.4	5.2	
	まあ積極派	746	57.6	93.6	35.5	24.5	22.3	67.0	22.0	2.0	32.2	32.0	11.8	1.6	1.7	0.3	2.3	0.8	1.1	0.1	18.5	2.0	
	消極派	34	20.6	79.4	23.5	20.6	11.8	50.0	5.9	-	17.6	32.4	8.8	2.9	-	-	-	-	-	-	11.8	11.8	

- ・40代ではファミリーレストランやレジャー施設の利用が高まる
- ・3歳未満の子供がいる層で「近所の公園」「図書館」「子育て施設」の利用が高くなる
- ・妊娠中のみの人は一般のレストランや映画館など、子供連れで行きにくい場所でもよく行く比率が高くなる
- ・外出積極派は「デパート」「繁華街」「レジャー施設」など人の多い場所への外出が高い傾向にある

7-2. 妊娠中や子供連れで「行け、ないところ」—層別

■子供連れや妊娠中の外出先で、行きたいのになかなか行けないところはどこですか？

(%)

	N	近所の公園	近所のスーパーや商店街	友人宅	図書館	施設の子育て	大型ショッピングセンター	デパート	繁華街	フード店	ファミリーレストラン	一般的なレストラン	居酒屋	カラオケ店	ホテル	映画館	コンサートホール	美術館	博物館	レジャー施設	その他
全体	1069	1.1	0.7	6.4	14.2	3.5	7.5	20.4	28.7	4.4	7.7	34.9	43.9	25.5	11.4	60.9	39.0	30.2	23.2	19.7	3.5
年代																					
20代以下	347	1.7	1.2	7.2	16.7	4.3	8.4	17.9	33.7	6.6	11.8	32.9	44.4	31.1	11.5	59.9	36.9	25.9	20.2	23.3	3.2
30代	670	0.9	0.4	6.1	13.4	3.0	7.3	21.6	25.5	3.3	5.7	36.4	44.0	22.7	11.5	62.4	39.3	31.8	24.3	17.9	3.4
40代	52	-	1.9	3.8	7.7	3.8	3.8	21.2	36.5	3.8	5.8	28.8	38.5	25.0	9.6	48.1	50.0	38.5	28.8	19.2	5.8
子育てステージ×家族有無																					
妊娠中/誰もいない	46	-	-	4.3	-	-	2.2	13.0	41.3	2.2	-	28.3	60.9	23.9	13.0	41.3	32.6	28.3	26.1	23.9	6.5
妊娠中/いる	294	0.3	0.7	5.8	5.1	2.4	6.5	15.6	30.6	6.5	4.8	12.2	42.9	21.8	6.1	38.8	31.0	20.4	16.0	28.9	6.5
出産後/誰もいない	94	1.1	1.1	7.4	21.3	5.3	7.4	19.1	21.3	2.1	10.6	50.0	47.9	26.6	11.7	72.3	39.4	35.1	23.4	17.0	2.1
出産後/いる	534	1.3	0.7	6.7	18.5	4.1	8.1	23.8	27.9	4.1	9.2	44.0	40.8	25.1	13.5	72.1	44.4	33.3	25.7	14.2	1.9
妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	7.1	-	7.1	7.1	7.1	14.3	28.6	21.4	-	-	50.0	42.9	42.9	21.4	71.4	57.1	50.0	42.9	21.4	-
妊娠中かつ出産後/いる	87	2.3	1.1	5.7	19.5	2.3	9.2	19.5	29.9	3.4	10.3	40.2	52.9	37.9	13.8	63.2	33.3	36.8	27.6	23.0	3.4
子供数																					
1人	501	0.8	0.4	5.6	12.6	4.0	6.6	18.4	31.3	5.2	7.6	29.7	41.9	24.0	9.2	55.7	35.3	25.3	19.2	22.4	4.0
2人以上	568	1.4	1.1	7.0	15.7	3.0	8.3	22.2	26.4	3.7	7.7	39.4	45.6	26.9	13.4	65.5	42.3	34.5	26.8	17.4	3.0
居住地																					
都市部	500	1.2	0.8	7.2	11.8	3.2	7.8	22.4	29.2	4.0	7.0	33.8	42.8	24.2	11.6	59.0	39.6	31.2	25.8	20.0	4.0
地方部	569	1.1	0.7	5.6	16.3	3.7	7.2	18.6	28.3	4.7	8.3	35.9	44.8	26.7	11.2	62.6	38.5	29.3	20.9	19.5	3.0
外出積極性																					
積極派	289	1.0	0.3	4.8	15.9	4.8	5.2	17.6	23.5	6.9	6.9	30.1	46.4	28.7	16.3	64.7	42.9	33.2	27.0	13.5	3.8
まあ積極派	746	1.2	0.7	6.8	13.8	3.1	8.2	21.8	30.6	3.5	7.6	36.6	43.6	24.3	9.2	60.2	37.9	28.8	21.6	21.7	3.5
消極派	34	-	5.9	8.8	8.8	-	11.8	11.8	32.4	2.9	14.7	38.2	29.4	26.5	17.6	44.1	29.4	35.3	26.5	29.4	-

3歳未満の子連れ層で「映画館」「一般レストラン」が高い

- ・お腹にぶつかられることの不安やお酒が飲めないことで、妊娠中の人は「繁華街」「居酒屋」をあげる比率が高くなる
- ・行きたいところのトップ「映画館」は3歳未満のいる層できわめて高く、「一般のレストラン」「コンサートホール」なども同様の傾向がみられる
- ・若い層より40代で「コンサートホール」や「美術館」の比率が高く、世代によるニーズの差がうかがえる

7-3. 妊娠中や子供連れで「行け、よいところ」の主な理由

[近所の公園]

- ・一人で連れて行くには大変でなかなか行く気になれない
- ・仕事をしていて、行けるような時間に一緒にいない
- ・知らない人と接するのが面倒なのでいまち行く気になれない
- ・行く途中に横断歩道がない道があり危険。公園自体も整備されていない

[近所のスーパー・商店街]

- ・子供連れでは他人に迷惑がかりそうだし、ゆっくり見ることができない
- ・子供連れだと気疲れす
- ・行くにはいけるけど重い荷物を持ってないから

[図書館]

- ・図書館では子供がうるさくしうから
- ・子供用の設備があまりととのっていない

[地域の子育て施設]

- ・自動車じゃないと行けない場所にあるから
- ・近くに児童館が無い　・児童館は時間があわない

[大型ショッピングセンター／デパート]

- ・最近変なニュースが多く、連れ去りにあつたら怖い
- ・子どもがじっとしていないので、行っても自分のしたいことができない
- ・子供がまだ小さく疲れさせてしまいそうだから
- ・子供がすぐに退屈するので、子供を遊ばせて置く場所がないところには連れて行けない
- ・カートや買い物かごを持っている人とぶつかったり　人が多いとお腹にかごがあたりそうで怖い
- ・一人で子供を連れて行くのは大変なので、夫か親と一緒にでないといけない

[繁華街]

- ・繁華街はベビーカーの利用が困難だから
- ・空気の悪そうなどころには連れて行きたくない
- ・足がないから。自分の運転は不安だし、公共の交通機関に子供連れで乗るのが大変だから
- ・子供がじっとしてなくて、連れて行っても楽しめない
- ・大人が多いところに子供を連れて行くのは不安。怖い人とかいたら嫌だから
- ・お腹にぶつかられたら困る

[ホテル]

- ・子供が周りに迷惑をかけそうなので
- ・子どもに対する目が冷やか

[ファーストフード／ファミリーレストラン／一般のレストラン]

- ・アレルギーがあるので、アレルギーに対応できるメニューがないところへはいきづらい
- ・ファーストフード店でも走り回って大騒ぎなので落ち着けない
- ・子供はじっとできないので、外食や大人のレジャーにつきあわずのは無理
- ・自分は食べたいが、子どもにはまだ食べさせたくないから
- ・たばこを吸う人が多いため
- ・健康的なメニューがないため
- ・食事をする場所は、子供が騒いで周りに迷惑をかけないか心配だし、喫煙している人もいて空気も悪そうだから
- ・子どもがいると入りにくい
- ・子供連れ歓迎だと助かるのですが、そうでないところは気がひけます
- ・子供が来るべき所ではないという観念が一般常識化されているから

[居酒屋／カラオケ]

- ・アルコールを飲んではいけなから
- ・居酒屋や映画は大人が楽しむところだから
- ・居酒屋は環境が悪そうだし、時間が遅い
- ・居酒屋は子供が一緒だと気になって、お酒が飲めない
- ・子供を連れて行けるようなところではないという先入観がある為
- ・居酒屋・カラオケはタバコの煙や人ごみなどが気になる

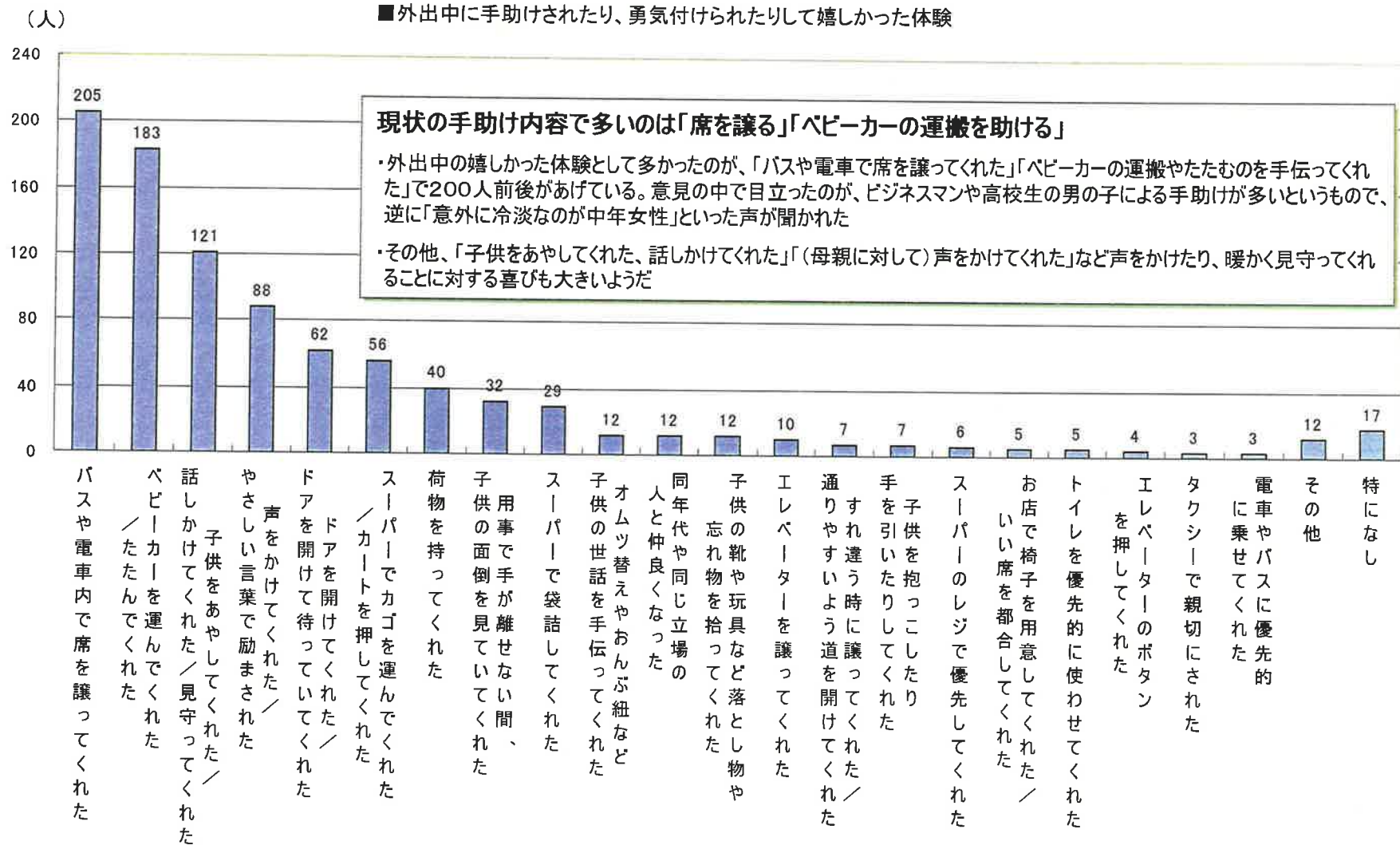
[映画館／コンサート／美術館／博物館]

- ・子供向けの場所でないため
- ・子供が少しでもうるさいと他の方の迷惑になると思っていく勇気が無い
- ・預かってくれそうな親・友人は遠方に住んでいるため
- ・特に映画を見たいのですが、子供が約2時間もの間じっとしているわけがありません
- ・乳児も連れて見れる映画館が増えているが、子供をつれてしているとゆっくり見ている暇はない
- ・子供を連れて行けるムードではない。行ったとしても、子供が気がかりで、ゆっくりできない

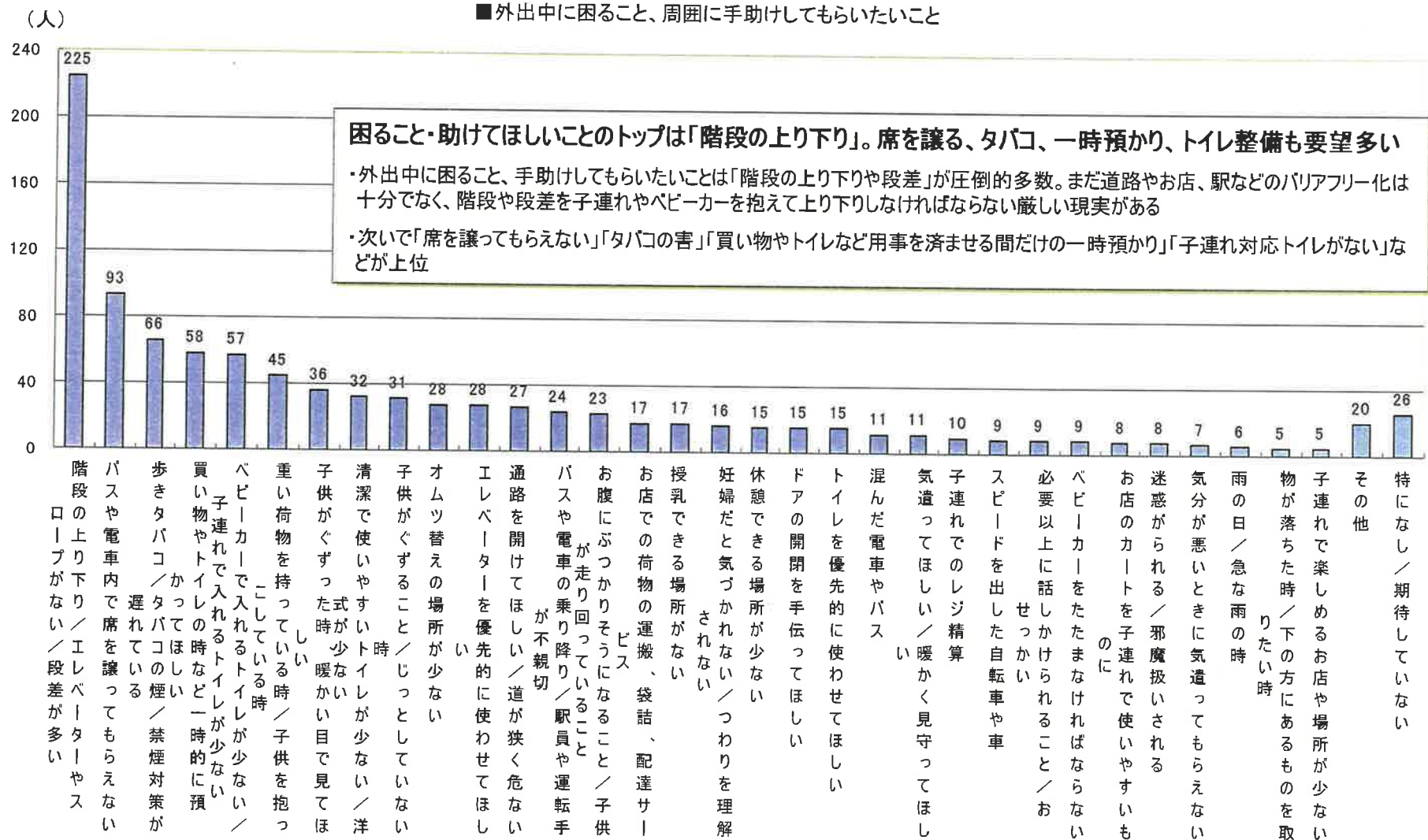
[テーマパークや遊園地などレジャー施設]

- ・子供が3人いるので、夫婦だけでは見きれないので
- ・子供が小さいので 並んだりする事ができない
- ・アトラクションに制限があるものに乗れないから
- ・子供が小さいので、一緒に楽しむ事はできない
- ・オムツ交換や授乳ができる場所がないから
- ・テーマパークなどは迷子心配
- ・テーマパークは長時間いることが多いので疲れてしまうから

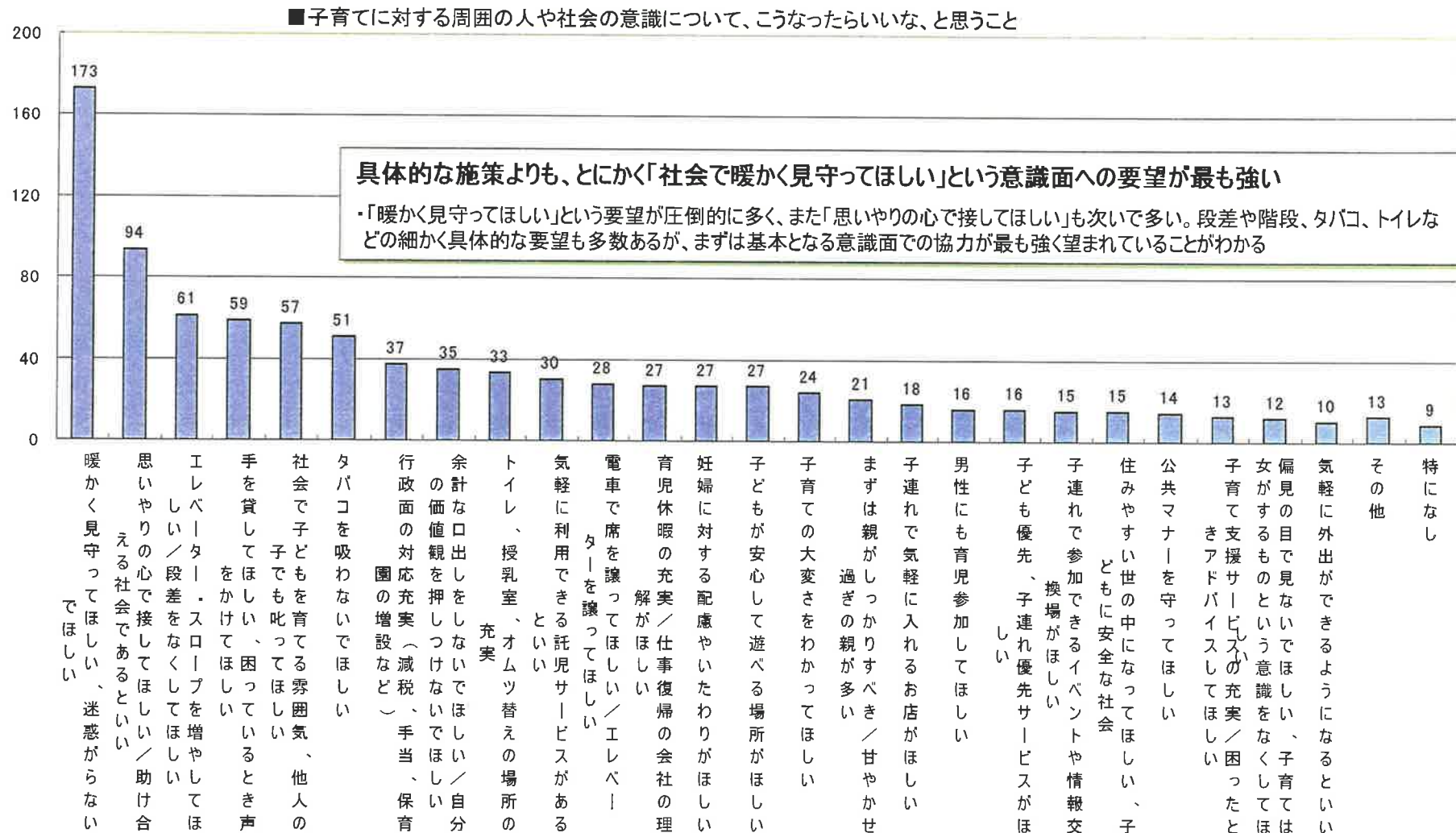
8. 外出中の嬉しかった体験



9. 外出中に困ること、周囲に手助けしてもらいたいこと

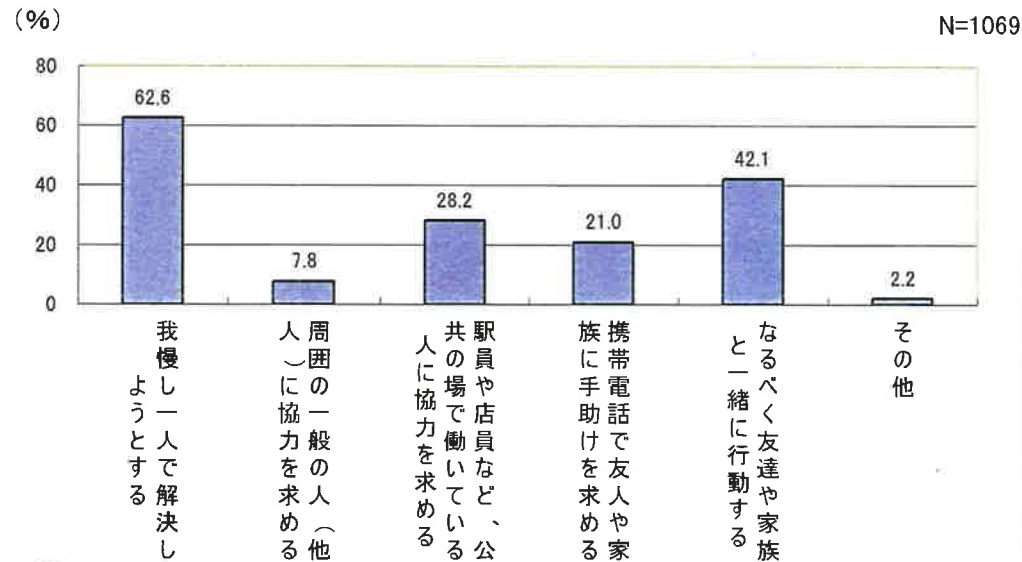


10. 子育てに対する周囲や社会の意識への要望



11. 困った時の対処の仕方

■ 自分一人ではどうしようもない状況に直面した時や周りに手を貸してもらいたい時、どうしますか？



他人には頼みにくい。一人で解決 63%

- ・困った時でも「我慢し一人で解決しようとする」人が一番多く、6割以上。そういった状況を事前に回避するために「なるべく友達や家族と一緒に行動する」人が次に多く42%
- ・「公共の場で働いている人に協力を求める」と回答した人は3割近くいるが、「一般の他人」に自ら頼もうとする人はわずか7.8%。困った時とはいえ、赤の他人に協力を頼みづらい社会の雰囲気が浮き彫りとなった

		N						
年代	20代以下	347	60.2	7.5	25.9	21.6	44.1	1.4
	30代	670	64.5	7.5	29.6	20.4	41.0	2.5
	40代	52	53.8	13.5	25.0	23.1	42.3	3.8
子育て ステージ × 支援 家族有 無	妊娠中/誰もいない	46	69.6	10.9	30.4	10.9	26.1	2.2
	妊娠中/いる	294	56.5	9.5	28.6	25.5	43.2	1.4
	出産後/誰もいない	94	75.5	6.4	24.5	18.1	35.1	8.5
	出産後/いる	534	63.3	7.9	28.5	20.6	43.1	1.7
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	42.9	-	28.6	7.1	28.6	7.1
子供数	妊娠中かつ出産後/いる	87	64.4	2.3	27.6	18.4	50.6	1.1
	1人	501	60.5	10.0	30.1	24.4	47.1	1.6
	2人以上	568	64.4	5.8	26.4	18.0	37.7	2.8
居住地	都市部	500	62.0	8.8	28.8	22.0	41.6	2.6
	地方部	569	63.1	6.9	27.6	20.0	42.5	1.9
外出 積極性	積極派	289	59.5	12.1	29.1	21.8	28.4	2.1
	まあ積極派	746	62.7	6.4	28.0	20.6	47.3	2.1
	消極派	34	85.3	-	23.5	20.6	44.1	5.9

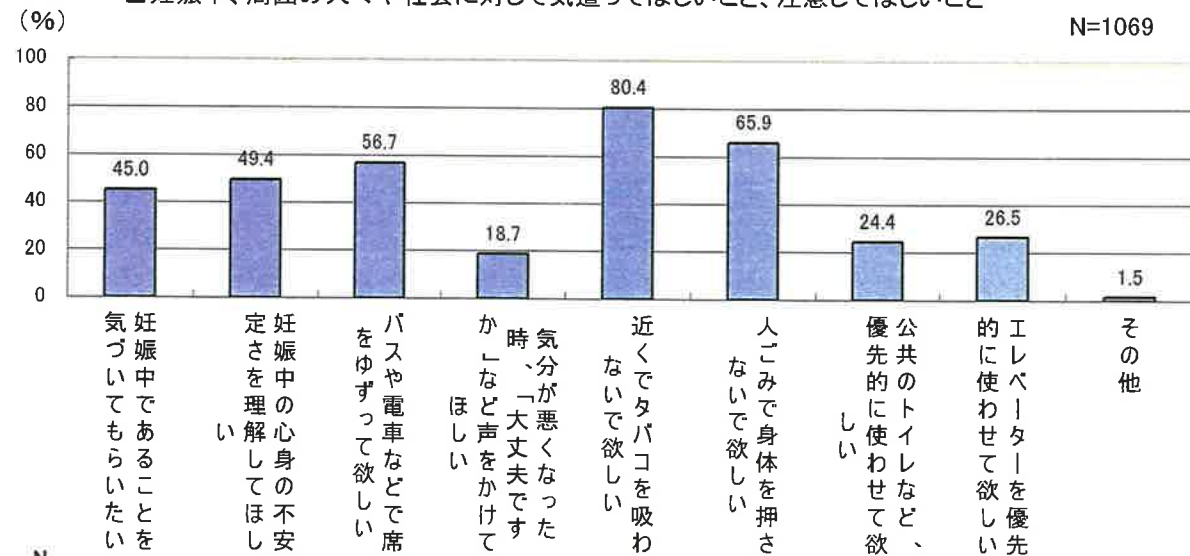
12. 妊娠中、気遣ってほしいこと

タバコを気遣って 80%

- ・妊娠中、気遣ってほしいことのトップは「タバコ」で8割が回答
- ・「人ごみで身体を押さないでほしい」「バスや電車で席を譲ってほしい」も過半数があげている
- ・また「妊娠中であることを気づいてほしい」「心身の不安定さを理解してほしい」といった理解を求める人も半数近くにのぼる
- ・総じて「気遣ってほしいこと・注意してほしいこと」の比率は若い人ほど高く、社会に対する要望を強く持っているのは若い母親といえる
- ・トイレやエレベーターを優先的に使わせてほしいという要望は「妊娠中かつ出産後3年未満」の層で高くみられる

■妊娠中、周囲の人々や社会に対して気遣ってほしいこと、注意してほしいこと

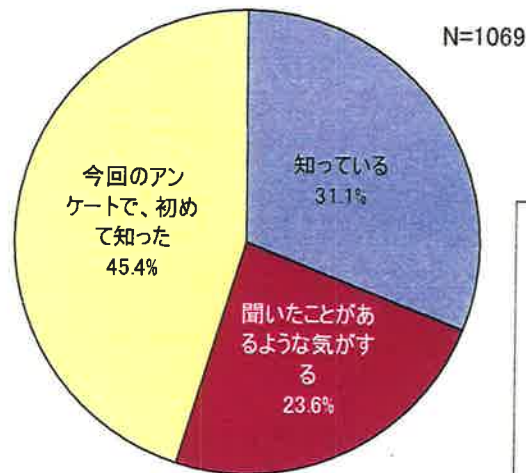
N=1069



	N	気づいてもらいたい	妊娠中の心身の不安定さを理解してほしい	バスや電車などで席をゆずって欲しい	か「など声をかけてほしい	近くでタバコを吸わないで欲しい	人ごみで身体を押さないで欲しい	優先的に使わせて欲しい	公共のトイレなど、的に使わせて欲しい	エレベーターを優先的に使わせて欲しい	その他
年代	20代以下	347	51.3	53.0	59.4	18.2	76.9	66.9	24.8	32.6	1.4
	30代	670	43.1	47.9	56.6	19.0	82.1	65.5	24.8	24.0	1.5
	40代	52	26.9	44.2	40.4	19.2	80.8	65.4	17.3	17.3	1.9
子育て ステージ ×支援 家族有 無	妊娠中/誰もいない	46	41.3	47.8	63.0	15.2	80.4	73.9	15.2	17.4	2.2
	妊娠中/いる	294	40.1	49.0	50.7	20.4	82.7	64.6	22.8	19.0	0.7
	出産後/誰もいない	94	50.0	44.7	59.6	24.5	74.5	64.9	22.3	28.7	1.1
	出産後/いる	534	46.1	49.4	58.2	18.4	80.0	67.4	25.7	29.0	2.1
	妊娠中かつ出産後/誰もいない	14	28.6	50.0	50.0	7.1	78.6	57.1	42.9	35.7	-
	妊娠中かつ出産後/いる	87	54.0	56.3	62.1	12.6	81.6	59.8	26.4	36.8	1.1
子供数	1人	501	47.1	51.1	60.3	21.2	84.6	70.7	22.4	27.3	1.2
	2人以上	568	43.1	47.9	53.5	16.5	76.6	61.8	26.2	25.7	1.8
居住地	都市部	500	46.0	49.6	63.2	18.2	80.6	67.2	23.8	30.4	0.8
	地方部	569	44.1	49.2	51.0	19.2	80.1	64.9	25.0	23.0	2.1
外出 積極性	積極派	289	48.1	45.3	59.9	21.5	77.9	65.7	27.3	27.3	1.7
	まあ積極派	746	44.4	51.3	55.6	18.2	81.8	66.9	23.6	26.4	1.2
	消極派	34	32.4	41.2	52.9	5.9	70.6	47.1	17.6	20.6	5.9

13-1. マタニティマーク—認知度と見かけた経験の有無

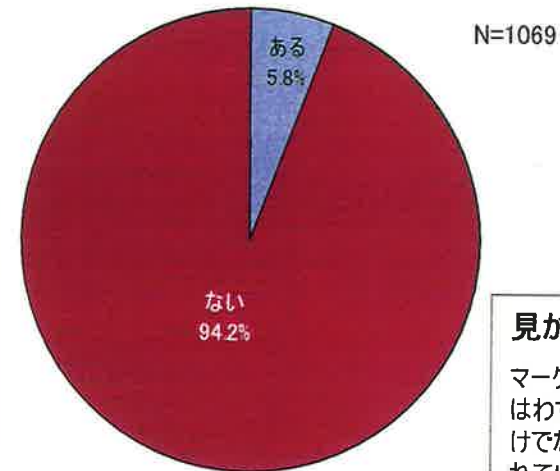
■マタニティマークのことをご存知ですか？



初めて知った 45%

マタニティマークを知っている人は3割強、「聞いたことがある」を含めると過半数に達する。しかし、全員が妊娠を経験している立場にも関わらず、「初めて知った」人が45%も存在し、マタニティマークの浸透はまだ不十分といえよう

■マタニティマークの使用者をみかけたことがありますか？



見かけたことがない 94%

マーク使用者を見たことがある人はわずか5.8%。認知度が低いだけでなく、ほとんどの人が利用されている様子さえ見たことがない

	N	知っている	聞いたことがあるような気がする	今回のアンケートで、初めて知った
全 体	1069	31.1	23.6	45.4
年代				
20代以下	347	35.2	19.3	45.5
30代	670	29.7	25.7	44.6
40代	52	21.2	25.0	53.8
子育てステージ				
妊娠中	340	22.9	24.1	52.9
出産後3年未満	628	35.2	24.4	40.4
妊娠中かつ出産後	101	32.7	16.8	50.5
居住地				
都市部	500	38.6	24.6	36.8
地方部	569	24.4	22.7	52.9
外出積極性				
積極派	289	33.9	21.1	45.0
まあ積極派	746	30.2	24.9	44.9
消極派	34	26.5	14.7	58.8

現在妊娠している人にマークが浸透していない

地方より都市部の方が認知度はやや高い。また、過去に妊娠を経験した「出産後3年未満」の人たちよりも、現在マークを必要とする「妊娠している人たち」の方が認知度が低いという矛盾した状況が起こっている

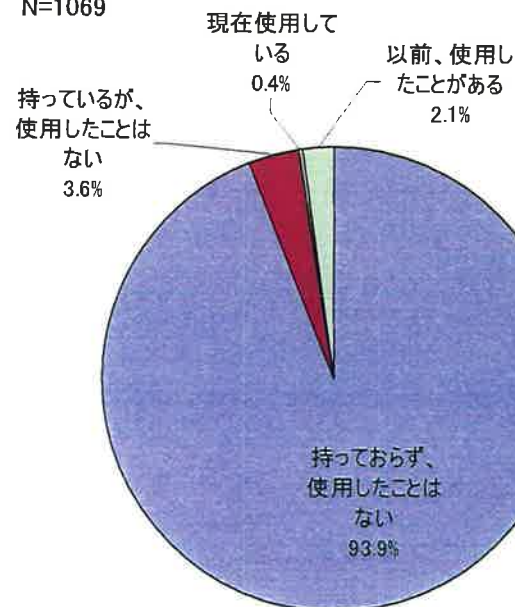
	N	ある	ない
全 体	1069	5.8	94.2
年代			
20代以下	347	4.6	95.4
30代	670	6.1	93.9
40代	52	9.6	90.4
子育てステージ			
妊娠中	340	5.9	94.1
出産後3年未満	628	5.7	94.3
妊娠中かつ出産後	101	5.9	94.1
居住地			
都市部	500	9.0	91.0
地方部	569	3.0	97.0
外出積極性			
積極派	289	6.9	93.1
まあ積極派	746	5.4	94.6
消極派	34	5.9	94.1

見かけたことがある人の比率は「都市部」と「40代」でやや高くなっている

13-2. マタニティマーク—自身での利用経験と使用効果

■使用したことがありますか？

N=1069



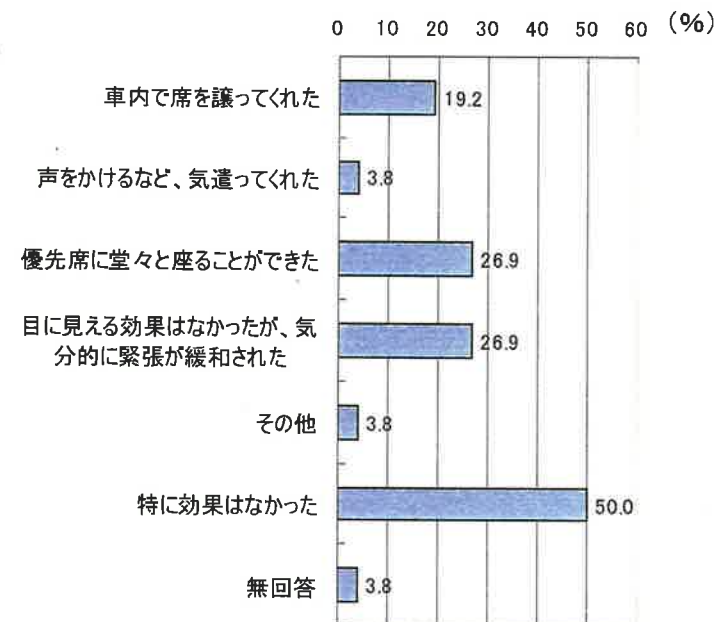
使用経験者 2.4%

保有経験者 6.0%

現在使用している人はわずか0.4%、以前使用も含めた使用経験者は2.4%。保有経験者でも6%にすぎず、利用経験はほとんどないに等しい

■使用した結果、効果はありましたか？

N=26



浸透状況が不十分な現状では、マーク使用の効果はない

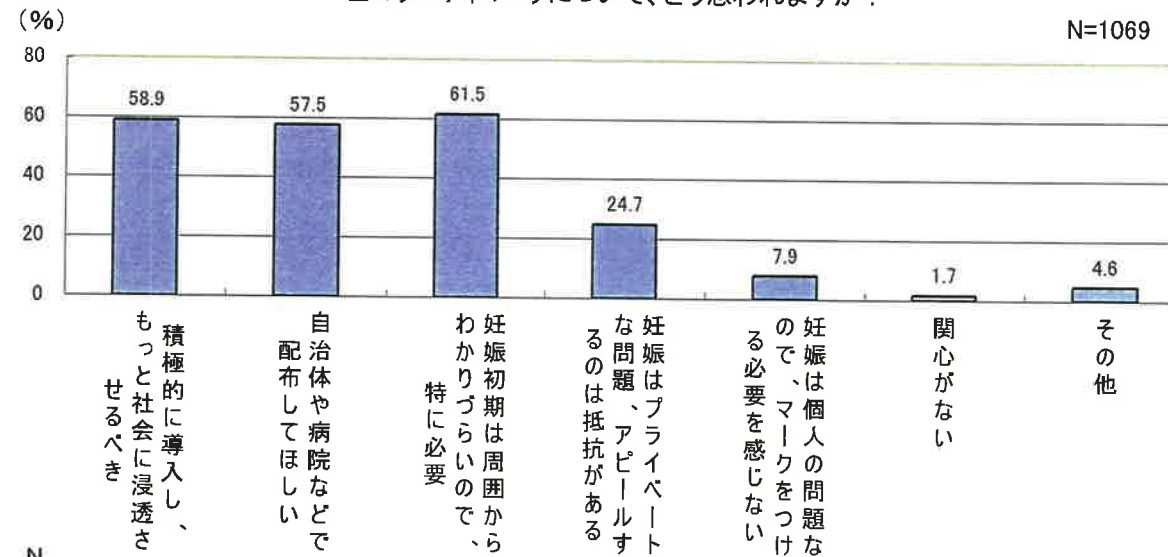
「特に効果はなかった」という回答が最も多く、目に見える効果が感じられるほどマタニティマークが社会に浸透していないという現状が明らかとなった

		N	持っておらず、使用したことはない	持っているが、使用したことはない	現在使用している	以前、使用したことがある
全 体		1069	94.0	3.6	0.4	2.1
年代	20代以下	347	93.7	2.3	0.6	3.5
	30代	670	94.3	4.0	0.3	1.3
	40代	52	92.3	5.8	-	1.9
子育てステージ	妊娠中	340	92.4	6.2	0.9	0.6
	出産後3年未満	628	95.2	1.9	-	2.9
	妊娠中かつ出産後	101	92.1	5.0	1.0	2.0
居住地	都市部	500	93.2	3.6	0.2	3.0
	地方部	569	94.7	3.5	0.5	1.2
外出積極性	積極派	289	94.8	3.1	0.7	1.4
	まあ積極派	746	93.7	3.6	0.3	2.4
	消極派	34	94.1	5.9	-	-

13-3. マタニティマークについて考え方

■ マタニティマークについて、どう思われますか？

N=1069



	N	64.3	58.5	62.8	23.9	4.9	1.4	4.6
年代	20代以下	347	▲	▲	▲			
	30代	670						
	40代	52						
子育て ステージ	妊娠中	340						
	出産後3年未満	628						
	妊娠中かつ出産後	101						
居住地	都市部	500						
	地方部	569						
	積極派	289						
外出 積極性	まあ積極派	746	▲	▲				
	消極派	34						

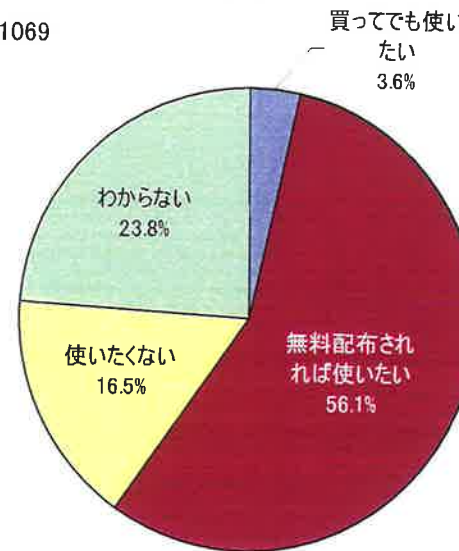
マタニティマークを浸透・配布すべき 6割

- ・認知度、見かけた経験、使用率・保有率、効果ともに低いマタニティマークに対して、母親たちがどのように評価しているかをみたものである
- ・「積極的に導入、もっと浸透させるべき」と考えている人はほぼ6割。特に「妊娠初期はわかりづらいので必要」と回答した人も6割強に達する。また、「自治体や病院などで配布してほしい」も6割近い回答で、過半数がマタニティマークを評価、配布・浸透を望んでいる
- ・特に「外出積極派」や最も大変と思われる「妊娠中かつ出産後3年未満」層でマタニティマークを望む声強い。また、年代的には若い母親ほどマークに肯定的な姿勢がみられる

13-4. マタニティマークの利用意向

■ マタニティマークがあれば使いたいと思いますか？

N=1069



利用したい人 6割

- ・利用意向を聞いたところ、「買っても使いたい」人は3.6%しかいないが、「無料配布されれば使いたい」人は56%。利用意向者は合わせて6割に達する
- ・「使いたくない」人は17%で、4人に1人が「わからない」という態度保留者

	N	買っても使いたい	無料配布されれば使いたい	使いたくない	わからない
全体	1069	3.6	56.1	16.5	23.8
年代					
20代以下	347	3.5	62.8	13.3	20.5
30代	670	3.1	54.6	17.6	24.6
40代	52	11.5	30.8	23.1	34.6
子育てステージ					
妊娠中	340	4.4	53.2	15.6	26.8
出産後3年未満	628	3.5	57.3	16.7	22.5
妊娠中かつ出産後	101	2.0	58.4	17.8	21.8
居住地					
都市部	500	4.8	53.6	17.4	24.2
地方部	569	2.6	58.3	15.6	23.4
外出積極性					
積極派	289	4.2	56.7	15.9	23.2
まあ積極派	746	3.5	56.8	15.8	23.9
消極派	34	2.9	35.3	35.3	26.5

20代「利用したい」は66%

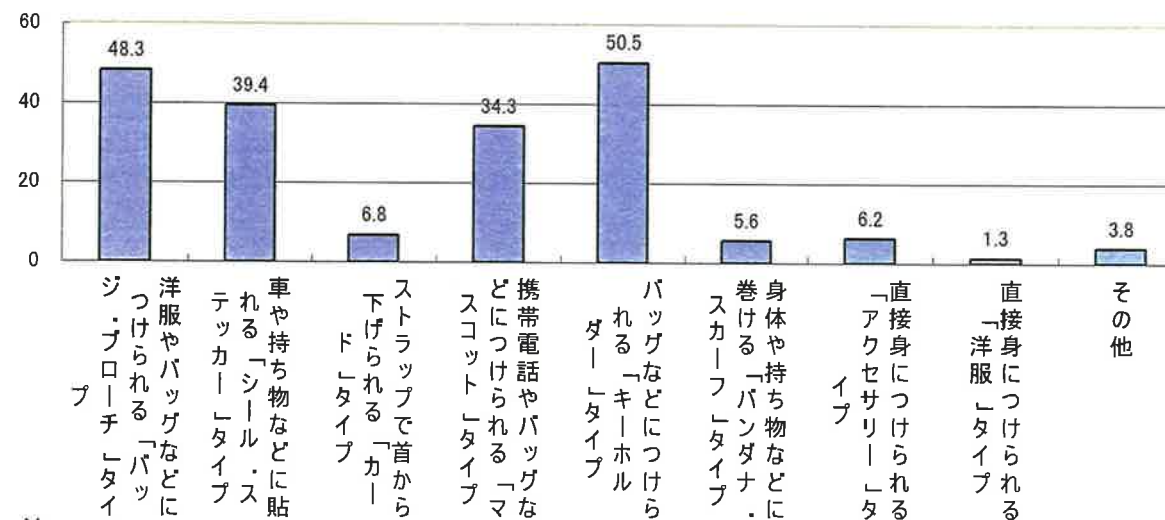
- ・20代で「無料配布されれば使いたい」という比率が高まる。40代では「買っても使いたい」という積極派と「使いたくない」「わからない」がいずれも全体より高く、多様化している
- ・外出消極派はマタニティマークに対しても消極的である

13-5. あったらよいと思うマタニティマークの形状

■どんな形状のマタニティマークがあるとよいと思いますか？

(%)

N=1069



	N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年代	20代以下	347	45.5	39.2	6.9	34.6	54.5	4.9	6.1	0.6	2.3
	30代	670	49.9	40.0	6.4	34.6	50.1	5.5	6.3	1.6	4.3
	40代	52	46.2	32.7	11.5	28.8	28.8	11.5	5.8	1.9	7.7
子育てステージ	妊娠中	340	43.8	36.8	6.2	30.6	49.4	5.3	5.0	1.2	6.2
	出産後3年未満	628	50.3	40.4	7.3	36.0	51.8	5.7	6.4	1.4	2.5
	妊娠中かつ出産後	101	50.5	41.6	5.9	36.6	46.5	5.9	8.9	1.0	4.0
居住地	都市部	500	52.4	35.4	7.6	32.8	50.2	5.6	5.8	0.6	3.8
	地方部	569	44.6	42.9	6.2	35.7	50.8	5.6	6.5	1.9	3.9
外出積極性	積極派	289	43.9	39.8	10.0	39.4	51.9	6.9	6.6	1.7	3.1
	まあ積極派	746	49.9	39.8	5.6	33.1	50.9	5.2	6.2	1.2	3.8
	消極派	34	50.0	26.5	5.9	17.6	29.4	2.9	2.9	-	11.8

一番人気は「キーホルダータイプ」と「バッジ・ブローチタイプ」

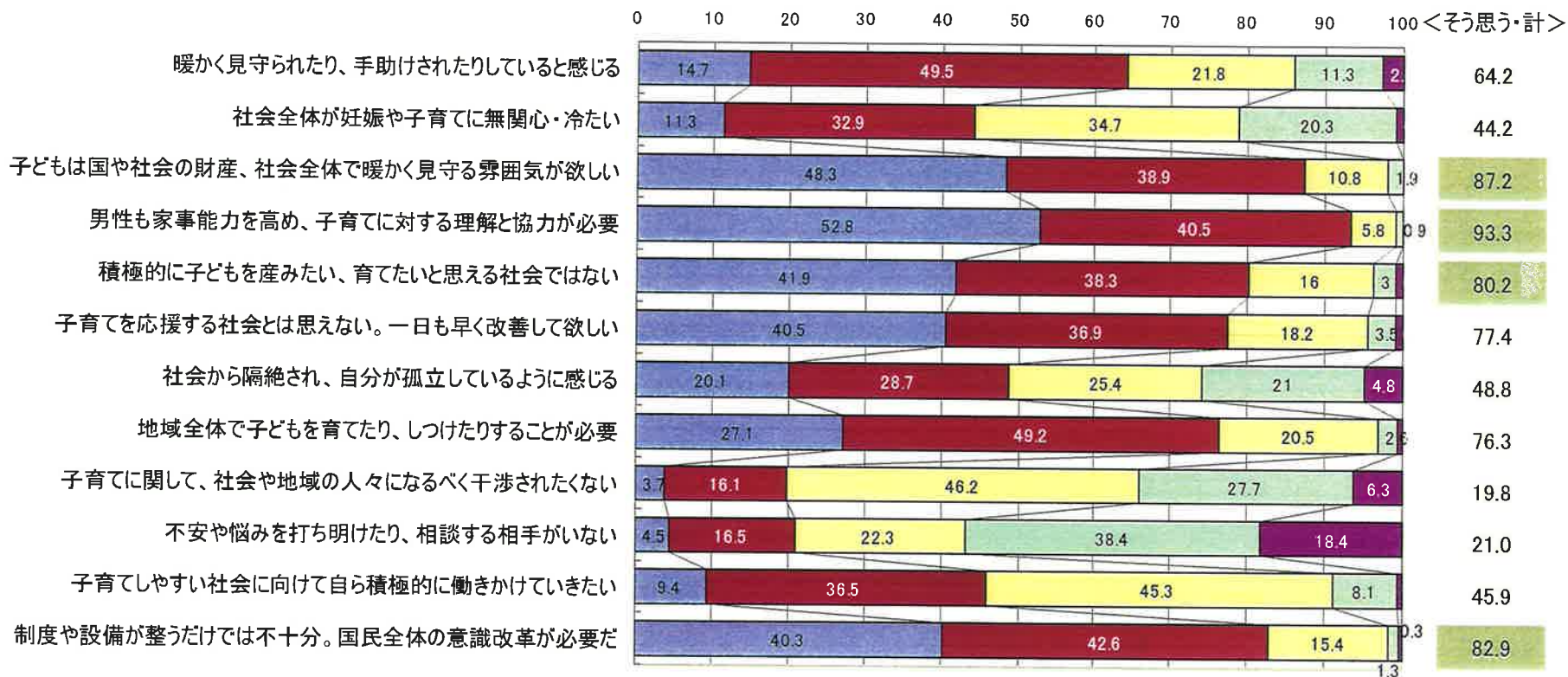
・マタニティマークの形状としては、「バッグなどにつけられるキーホルダータイプ」が最も高く約5割の人が回答。次いで「洋服やバッグにつけられるバッジ・ブローチタイプ」の48%。現在多く出まわっているのはカンバッジタイプ(ベビーインミー)やマスコットタイプ(ベねっせ)だが、キーホルダーの人気が高い。20代の若い層でキーホルダータイプがやや高くなっている

14. 周囲や世間の人々に対する考え方

■子育て中の立場から見て、周囲や世間の人々に対してどのように感じていますか？

N=1069

□非常にそう思う □まあそう思う □どちらとも言えない □あまりそう思わない □まったくそう思わない (%)



子供を産みたい社会ではない 80% ⇒ 社会全体で暖かく見守って 87%/意識改革が必要 83%/一日も早く改善してほしい 77%

- ・子育てを取り巻く周囲に対する基本意識を5段階で回答してもらった結果、最も「そう思う」人の比率が高かったのが「男性の家事能力アップと理解・協力」で9割以上が回答。男性の家事や育児への参加への要望はきわめて高い
- ・「社会全体で暖かく見守る雰囲気がほしい」(87%)、「国民全体の意識改革が必要」(83%)が8割を越えている他、「一日も早く改善してほしい」(77%)も高く、社会の意識改善・改革が待たれている
- ・さらに現在の社会は「積極的に子供を産みたい、育てたいと思える社会ではない」と考える人も8割に達しており、少子化に繋がりがねない事態の深刻さを投げかけている

14-1. 周囲や世間の人々に対する考え方—層別(そう思う・計)

■子育て中の立場から見て、周囲や世間の人々に対してどのように感じていますか？— そう思う・計

(%)

	N	暖かく見守られたり、手助けされたりしていると感じる	社会全体が妊娠や子育てに無関心・冷たい	子どもは国や社会の財産、社会全体で暖かく見守る雰囲気がある	男性も家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要	積極的に子どもを産みたい、育てたいと思える社会ではない	子育てを応援する社会とは思えない。一日も早く改善して欲しい	社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる	地域全体で子どもを育てたり、しつけたりすることが必要	子育てに関して、社会や地域の人々になるべく干渉されたくない	不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がない	子育てしやすい社会に向けて自ら積極的に働きかけていきたい	制度や設備が整うだけでは不十分。国民全体の意識改革が必要だ
全 体	1069	64.2	44.2	87.2	93.3	80.2	77.4	48.8	76.3	19.8	21.0	45.9	82.9
年代													
20代以下	347	67.1	49.0	89.0	93.7	78.1	75.8	56.2	70.6	23.6	24.2	48.7	83.0
30代	670	63.6	42.1	86.7	92.8	81.0	77.8	45.1	79.3	18.2	19.3	44.5	83.0
40代	52	51.9	40.4	80.8	96.2	82.7	82.7	48.1	76.9	15.4	21.2	46.2	80.8
子育てステージ													
現在妊娠中	340	58.5	43.8	83.5	91.8	78.5	73.8	42.9	68.8	19.7	22.6	39.1	80.9
出産後3年未満	628	66.9	44.3	88.5	94.7	80.1	78.3	50.6	80.3	19.3	19.4	48.2	83.4
現在妊娠中かつ出産後	101	66.3	45.5	91.1	89.1	86.1	83.2	57.4	77.2	23.8	24.8	54.5	86.1
支援家族													
誰もいない	154	50.0	48.1	86.4	92.9	82.5	82.5	58.4	76.6	18.2	34.4	44.2	88.3
いる	915	66.6	43.6	87.3	93.3	79.8	76.5	47.2	76.3	20.1	18.7	46.2	82.0
子供数													
1人	501	60.9	45.9	86.0	93.0	78.6	75.0	46.7	73.3	19.8	24.4	45.7	81.6
2人以上	568	67.1	42.8	88.2	93.5	81.5	79.4	50.7	79.0	19.9	18.0	46.1	84.0
仕事有無													
専業主婦	796	64.1	43.8	88.1	93.2	78.9	77.1	49.4	76.4	20.0	21.6	45.1	82.7
有職主婦	273	64.5	45.4	84.6	93.4	83.9	78.0	47.3	76.2	19.4	19.0	48.4	83.5
世帯													
核家族世帯	910	61.6	44.6	87.9	93.4	80.4	77.7	49.6	76.6	19.8	20.9	45.8	83.2
同居世帯	153	77.8	42.5	83.7	92.2	78.4	75.8	45.1	74.5	20.3	22.2	46.4	81.0
居住地													
都市部	500	63.2	47.2	86.8	93.2	83.2	79.2	47.0	77.6	19.4	21.4	47.8	84.6
地方部	569	65.0	41.7	87.5	93.3	77.5	75.7	50.4	75.2	20.2	20.6	44.3	81.4
外出積極性													
積極派	289	70.2	48.4	87.9	93.1	78.5	77.5	48.4	79.9	19.7	17.3	56.4	82.7
まあ積極派	746	62.3	42.9	87.9	93.6	80.8	77.7	47.6	76.1	19.6	22.5	43.3	83.6
消極派	34	52.9	38.2	64.7	88.2	79.4	67.6	79.4	50.0	26.5	17.6	14.7	67.6

「支援家族がない」「妊娠中かつ出産後3年未満」で問題意識が強い

- ・層別にみると、同居世帯や支援者がいる人たちでは「暖かく見守られたり、手助けされていると感じる」が高い
- ・「社会からの孤立感」は20代、「妊娠中かつ出産後3年未満」「支援家族がない」「外出消極派」層で顕著である。総じて、支援家族がない人、小さな子供を抱えながら妊娠している人で問題は深刻で、その分、改善要望や意識改革要望が高くなっている
- ・また、外出積極派は「子育てしやすい社会に向けて積極的に働きかけていきたい」の比率が他層より高く、社会変革に対してもきわめて積極的な層といえる

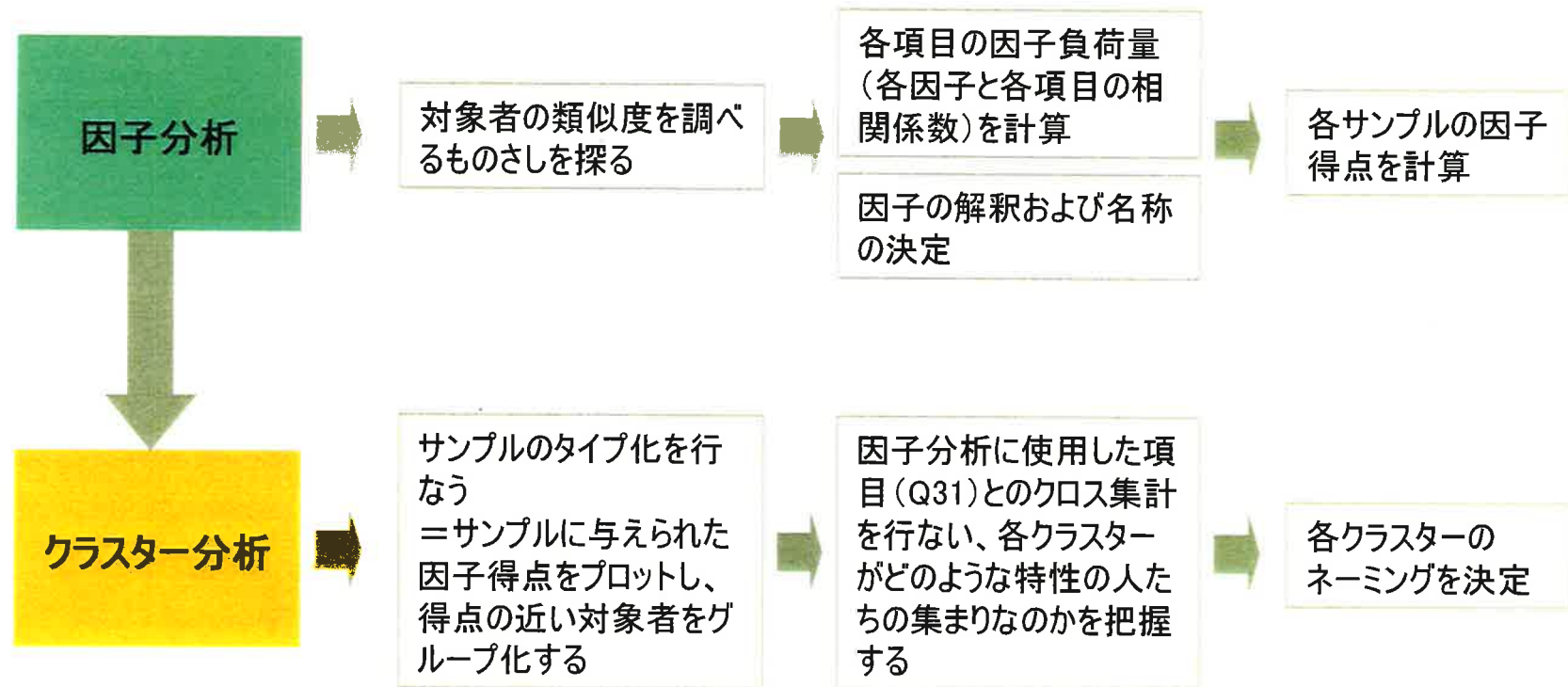
クラスター分析編（市場のセグメント）

対象者がどのようなグループに分かれ、それぞれどのような特徴を持つ人たちであるかを分析するために、クラスター分析を行なった。以下、クラスター分析の目的と手順、クラスター分析結果をまとめた。

1. クラスター分析の手順

▼クラスター分析の目的: 今回の対象者を「子育て中の立場から見た周囲や世間の人々に対する感じ方」(Q31)の回答の仕方によってタイプ分けし、どのような考えを持つ母親がどのぐらいのボリュームで存在するかを把握する。

▼クラスター分析までの手順



2. 因子分析の結果

▼因子分析に使用した設問

「子育て中の立場から見た周囲や世間の人々に対する感じ方」(Q31)の5段階回答の設問を使用

▼因子分析の結果

Q31	因子負荷量	
	因子1	因子2
3) 子どもは国や社会の財産だから、社会全体で子育てを暖かく見守る雰囲気欲しい	0.6689	-0.0082
12) 子育て支援は制度や設備が整うだけでは不十分。国民全体の意識改革が必要だ	0.6596	0.1097
6) 子育てを応援する社会とは思えない。一日も早く改善して欲しい	0.6166	0.4786
8) 地域の人たちと気軽に声をかけあいながら、地域全体で子どもを育てたり、しつけたりすることが必要だ	0.5426	-0.2994
5) 積極的に子どもを産みたい、育てたいと思えるような社会ではない	0.4771	0.4503
4) 男性も仕事と同様に育児や家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要である	0.4463	0.0621
11) 社会から支援を受けるだけでなく、子育てしやすい社会に向けて自ら積極的に働きかけていきたい	0.4082	-0.0226
2) 社会全体が妊娠や子育てに関心で、冷たいと感じる	0.3356	0.5348
9) 子育てに関して、社会や地域の人々になるべく干渉されたくない	-0.2621	0.5015
10) 妊娠・子育ての不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない	-0.0312	0.4704
7) 妊娠中や子育て中、社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる	0.2410	0.4086
1) 身近な人々や地域の人々に暖かく見守られたり、手助けされたりしていると感じる	0.0344	-0.3938

▼因子の解釈・名称決定

因子1

現状不満・改善要望
因子

因子2

現状孤立・非干渉
要望因子

3. クラスター分析の結果と特性

■クラスター別―「そう思う」・計

		N (%)	全 体 1068 (100.0)	クラスター1 475 (44.5)	クラスター2 361 (33.8)	クラスター3 197 (18.4)	クラスター4 21 (2.0)	クラスター5 14 (1.3)
因子1	現状不満・改善要望	3) 社会全体で子育てを暖かく見守る雰囲気欲しい	87.2	99.4	▲73.4	94.4	▲9.5	▲42.9
		12) 制度や設備が整うだけでは不十分。意識改革が必要	82.9	98.7	▲67.9	81.2	▲4.8	78.6
		6) 子育てを応援する社会とは思えない。一日も早く改善して欲しい	77.4	98.3	70.9	▲44.2	▲9.5	100.0
		8) 地域全体で子どもを育てたりしつけたりすることが必要	76.3	89.7	▲54.6	95.4	▲19.0	—
		5) 積極的に子どもを産みたい育てたいと思えるような社会ではない	80.2	96.4	75.3	▲52.3	▲42.9	100.0
		4) 男性も育児や家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要	93.3	98.1	88.1	94.4	▲66.7	85.7
		11) 社会から支援を受けるだけでなく積極的に働きかけていきたい	45.9	63.2	▲25.8	49.2	—	▲7.1
因子2	非現状干渉孤立・要望	2) 社会全体が妊娠や子育てに無関心で、冷たいと感じる	44.2	65.1	37.4	▲9.1	—	78.6
		9) 子育てに関して、社会や地域の人々になるべく干渉されたくない	19.8	17.7	28.3	▲3.0	28.6	100.0
		10) 不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない	21.0	23.6	26.0	▲3.6	▲4.8	71.4
		7) 社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる	48.8	62.9	46.0	▲21.8	▲14.3	78.6
		1) 暖かく見守られたり、手助けされたりしていると感じる	64.2	62.3	57.1	85.8	57.1	▲14.3

[注] 網掛けは全体に比較して+10%以上。▲印は-10%以上／下線・太字は全体±20%以上

クラスター1＝現状の子育て環境(社会)への不満が大きく、積極的に改善を望んでいる層。自らの働きかけ意欲もある。最もボリュームが大きく、全体の約45%を占める

クラスター2＝総じて社会に対する期待感や改善意欲が低い層。社会の無関心さや子育ての孤立感をあまり感じておらず、独立独歩的。全体の約34%を占める

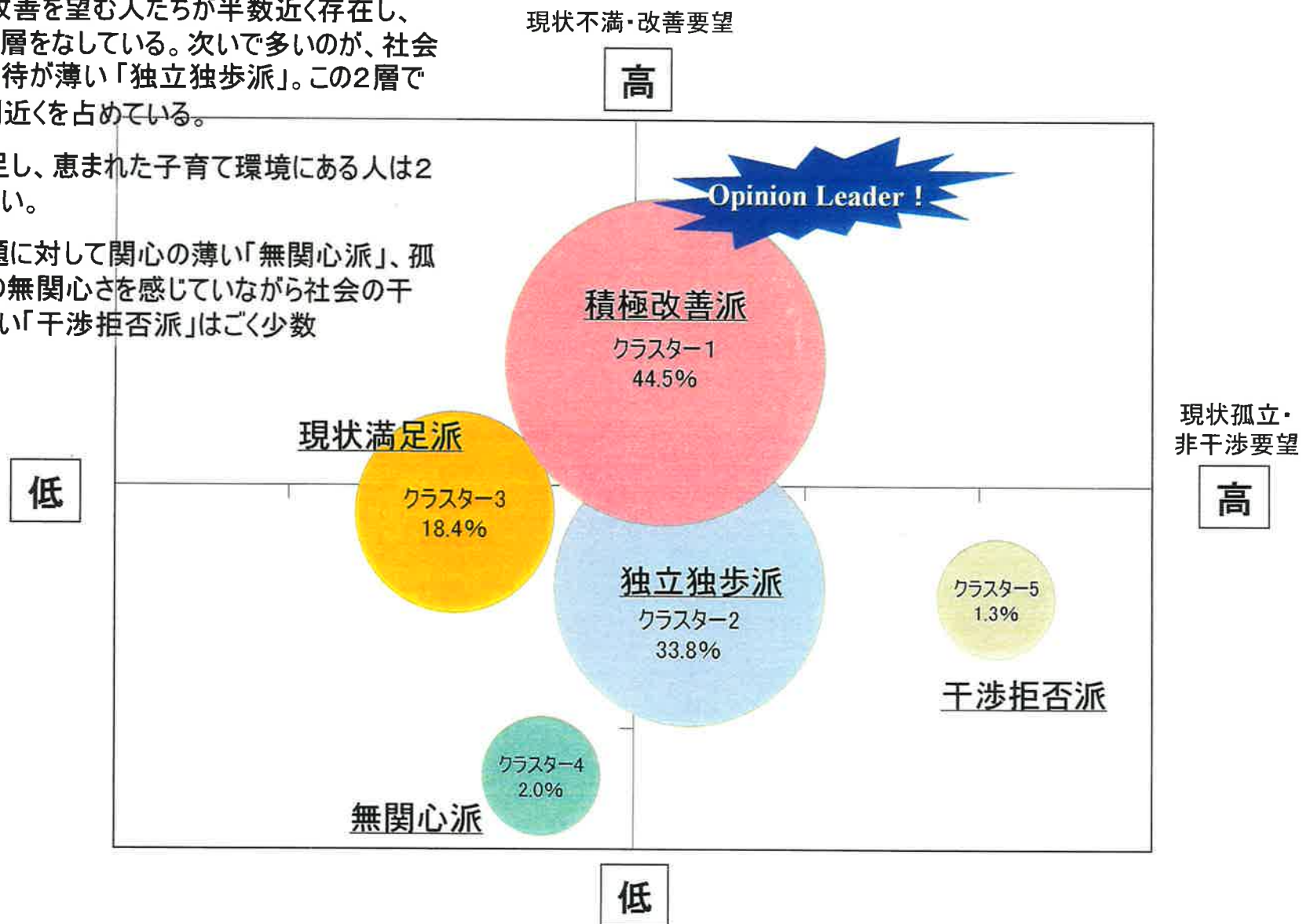
クラスター3＝周囲から見守られたり手助けされており、子育て環境に恵まれている層。改善意欲は低く、現状肯定派。全体の約18%を占める

クラスター4＝すべての項目で数値が低く、社会に対する不満も自らの働きかけ意欲もほとんどない無関心層。全体の2%に過ぎない

クラスター5＝現在子育てに孤立感を感じていながら、社会や地域による干渉を望まない人たち。全体の1.3%に過ぎない

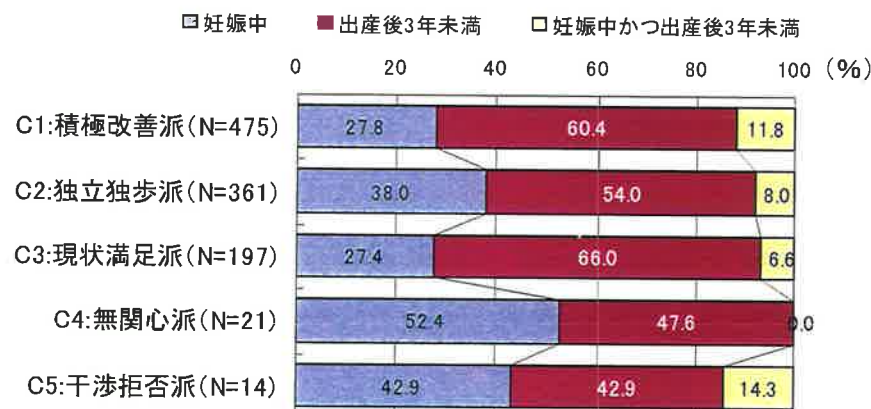
4. クラスターの名称とポジショニング

- 積極的に改善を望む人たちが半数近く存在し、最も大きな層をなしている。次いで多いのが、社会に対する期待が薄い「独立独歩派」。この2層で全体の8割近くを占めている。
- 現状に満足し、恵まれた子育て環境にある人は2割に満たない。
- 子育て問題に対して関心の薄い「無関心派」、孤立や社会の無関心さを感じていながら社会の干渉を望まない「干渉拒否派」はごく少数



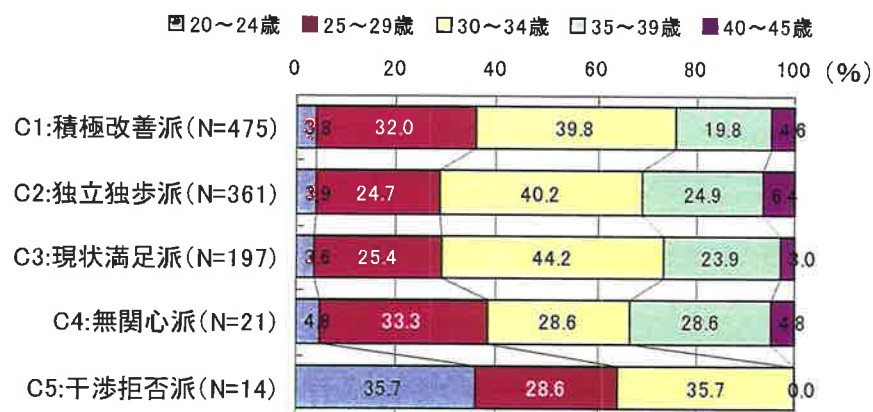
5-1. クラスター別の特性①

[子育てステージ]



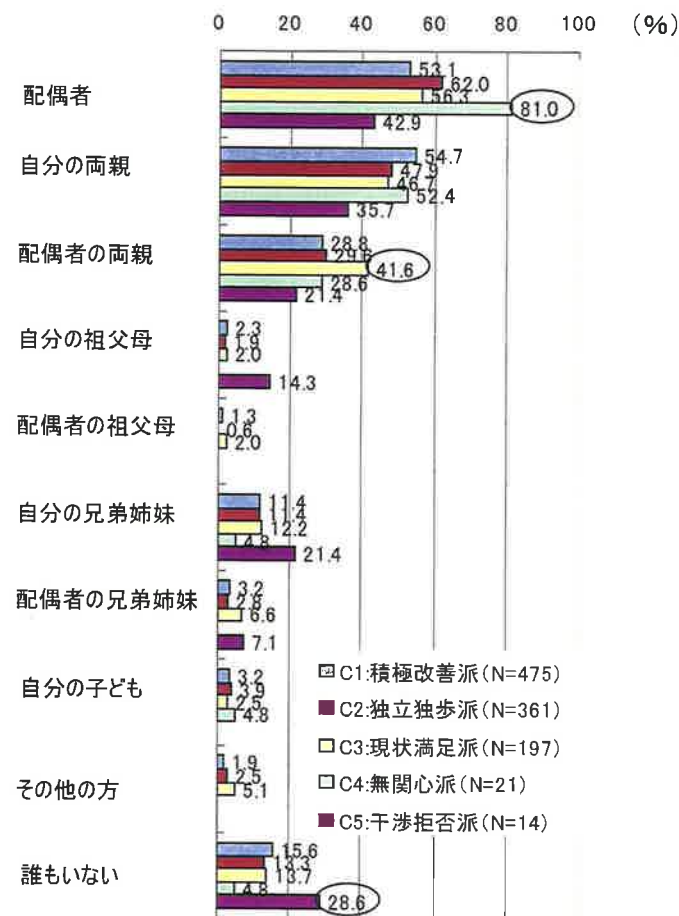
「独立独歩派」で妊娠中の比率が高い

[年代]



「積極改善派」では20代後半の比率が高い

[支援家族]



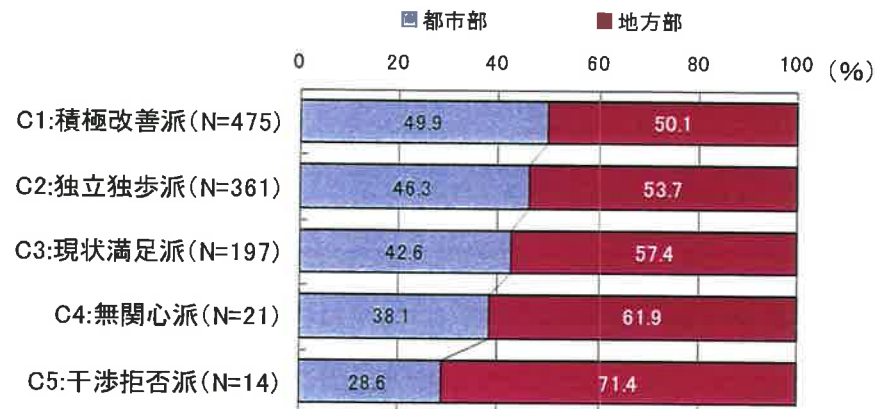
・「現状満足派」の人たちで「配偶者の両親」に支援されているケースが多い

・「干渉拒否派」では「誰もいない」比率が極めて高い

[注] クラスター4「無関心派」およびクラスター5「干渉拒否派」はサンプル数が少ないため、誤差率が大きく、あくまでも参考値。以下同様

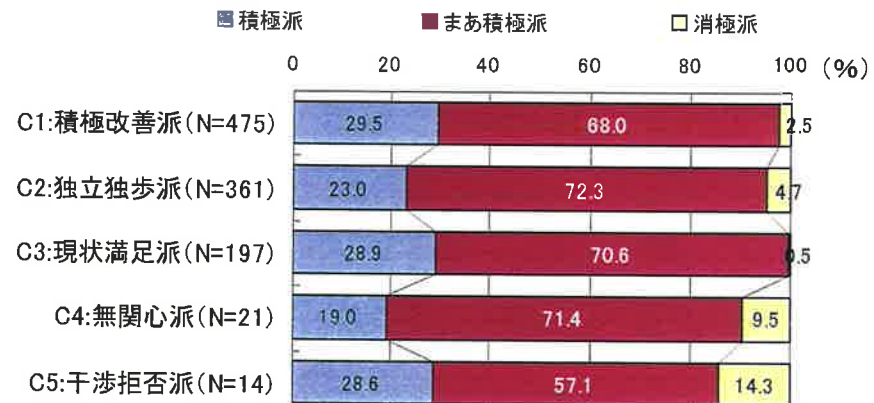
5-2. クラスター別の特性②

[居住地]



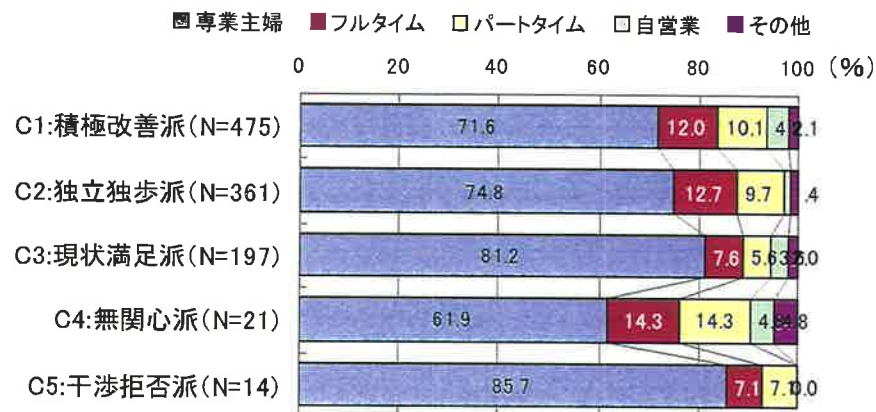
「積極改善派」ほど都市部比率が高まる

[外出への積極性]



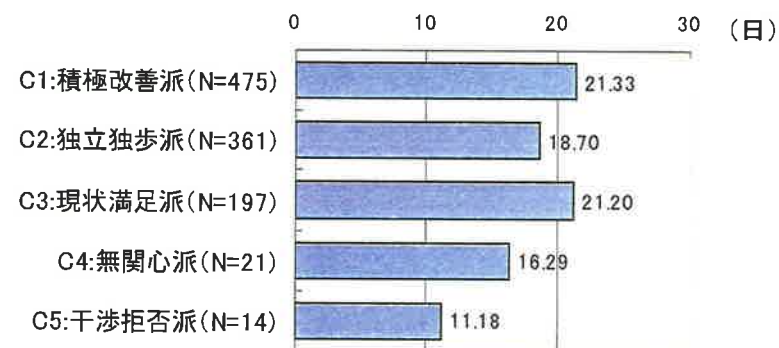
「積極改善派」や「現状満足派」の社会に対して前向きな人たちが外出にやや積極性がみられる

[仕事の有無]



「積極改善派」より「現状満足派」の方が専業主婦率が高い

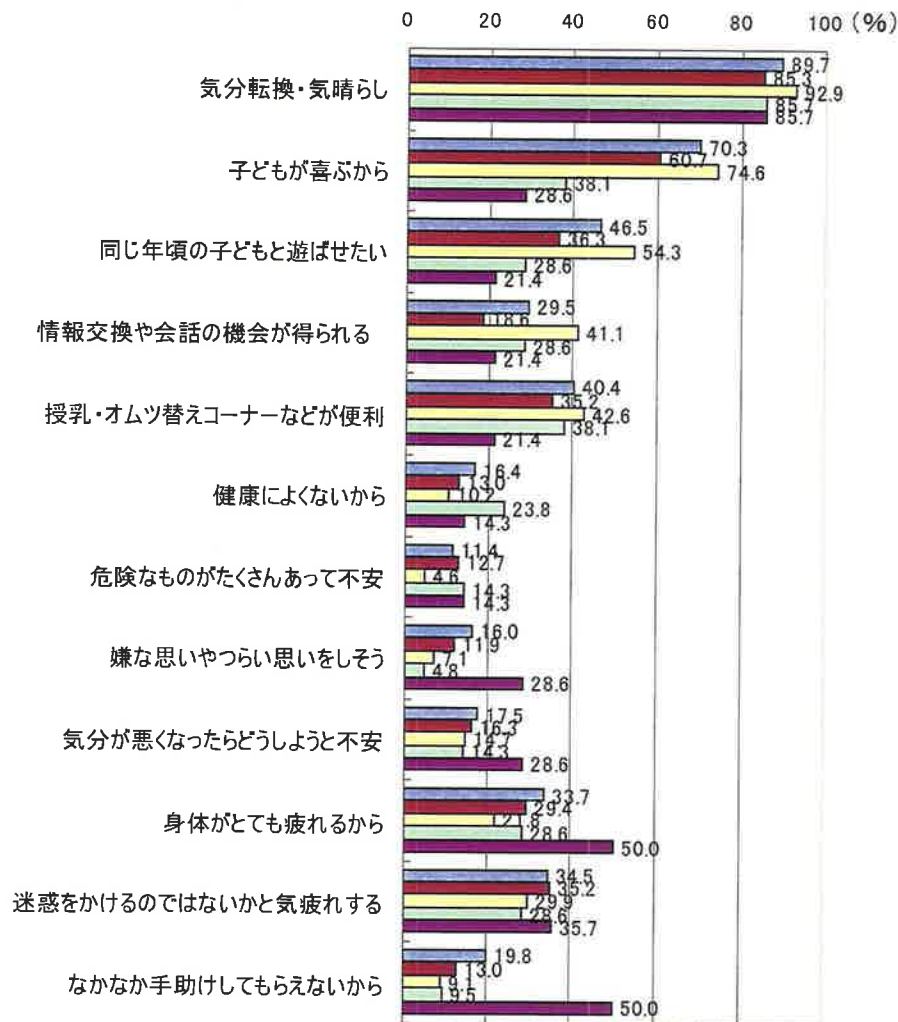
[近所への外出頻度](月あたり日数)



「積極改善派」と「現状満足派」で日常的な近所への外出頻度が高い

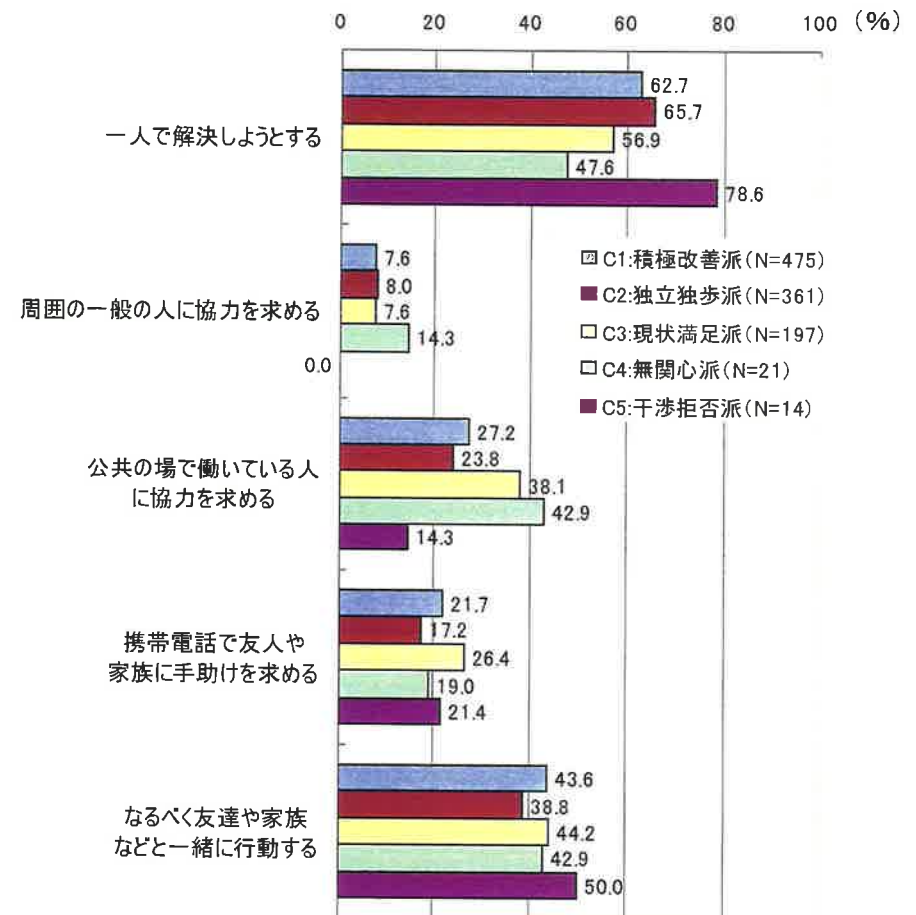
5-3. クラスター別の特性③

[外出の動機と躊躇する要因]



外出のプラス要因は「現状満足派」で高く、マイナス要因は「干渉拒否派」で高い

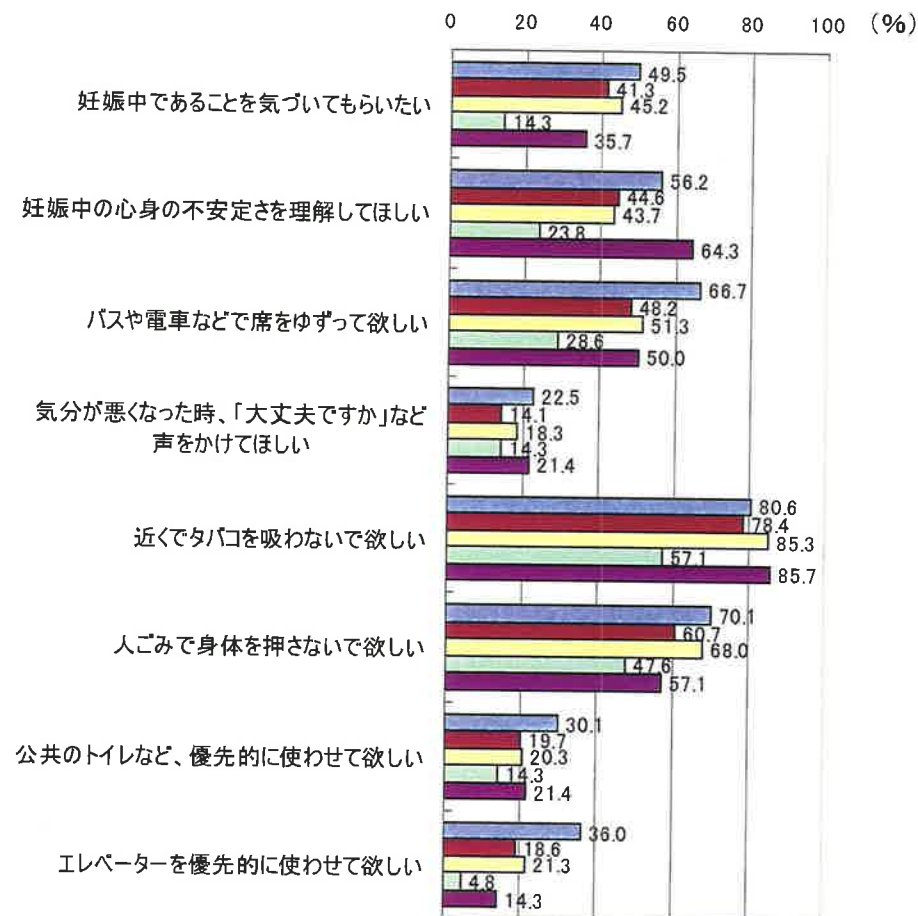
[困った時の対処方法]



「独立独歩派」と「干渉拒否派」で「一人で解決する」比率が高くなる。「公共の場で働く人に協力を求める」は「現状満足派」と「無関心派」に多い

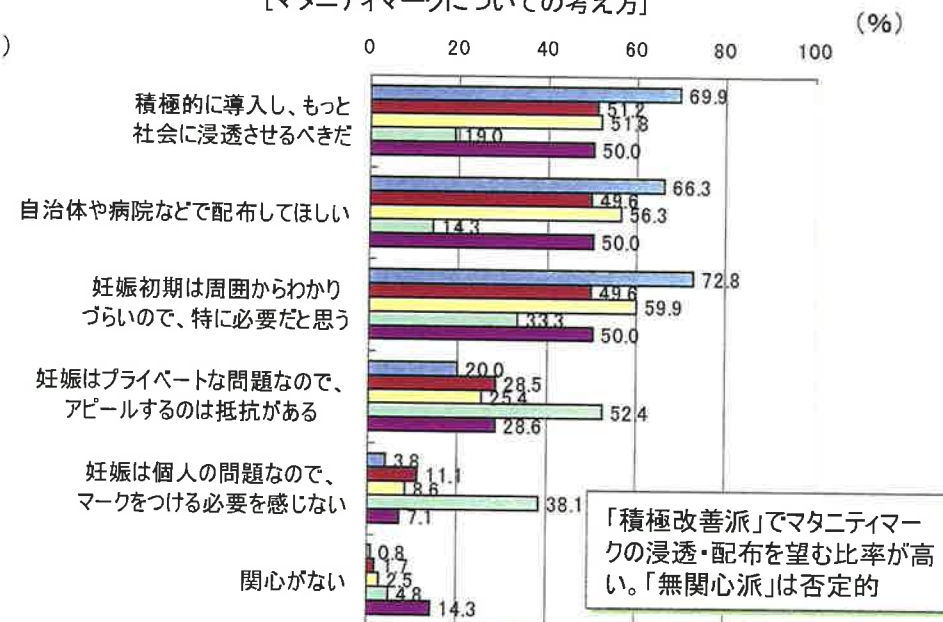
5-4. クラスター別の特性④

〔妊娠中に気遣ってほしい、注意してほしいこと〕



クラスター1～3の中では、総じて「積極改善派」で要望が強い傾向

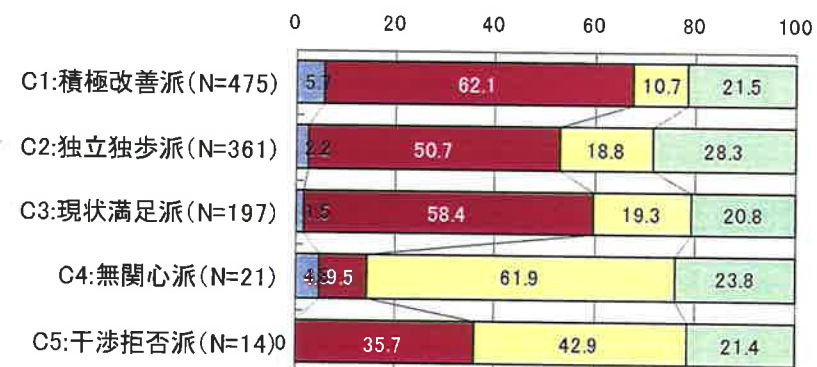
〔マタニティマークについての考え方〕



「積極改善派」でマタニティマークの浸透・配布を望む比率が高い。「無関心派」は否定的

〔マタニティマーク利用意向〕

■ 買ってでも使いたい ■ 無料配布されれば使いたい □ 使いたくない □ わからない



マタニティマークの利用意向は「積極改善派」が最も高い

結果のまとめと問題点の整理

①母親の社会に対する基本意識と社会意識啓蒙活動の必要性

子育てを取り巻く社会への不満と不安

子供を産みたい、育てたいと思える社会ではない 80%

社会全体が妊娠や子育てに無関心・冷たい 44%

子供は社会の財産。社会全体で暖かく見守る雰囲気がほしい 87%

制度や設備が整うだけでは不十分。国民全体の意識改革が必要だ 83%

子育てを応援する社会とは思えない。1日も早く改善してほしい 77%

暖かく見守る社会への意識改革が急務

子育てしやすい社会への改善に積極的

子育てしやすい社会に向けて、自ら積極的に働きかけていきたい 46%

(クラスター分析による)「積極改善派」が45% で最も多い

子育てを見守る社会の側の意識啓蒙活動への取り組みが急務

②母親の子育て環境の実態と外出先社会の受け入れ体制整備の必要性

孤立化しやすい育児環境

核家族世帯 85%
(都市部 89%)

集合住宅に居住 63%

配偶者が支援してくれない 43%

支援家族が誰もいない 14%

社会から隔絶され、自分が孤立しているように感じる 49%

不安や悩みを打ち明けたり、相談する相手がいない 21%

専業主婦比率 75%
(専業主婦の方が孤立化しやすい)

男性や地域の育児参加が望まれている

男性も育児や家事能力を高め、子育てに対する理解と協力が必要 93%

地域全体で子供を育てたり、しつけたりすることが必要 76%

社会に出ようとする外出意欲は高い

外出積極派 27%
まあ積極派 70%

母親自身の気分転換に外出は不可欠

気分転換や気晴らしで外出 89%

孤立化を防止するためにも、外出しやすい社会体制が必要

③妊娠中・子連れでの外出実態

日常的な外出は徒歩でいける範囲

移動手段「徒歩」 65%
(都市部 75%)

都市部では公共交通機関を利用

移動手段「電車」(都市部) 47%

一戸建てや地方部はクルマ利用も高

移動手段「自家用車」(自分で運転)
59% (都市部 42%)

近所への外出頻度は高い

ほとんど毎日 51%

近所の公園によく行く 57%

近所のスーパーや商店街 93%

街中や遠出は難しい現状

核家族、都市部、支援家族なしの層で街中への外出や遠出が少ない

孤立しやすい専業主婦層で外出頻度が低い

子連れでは行けない場所が多い

行きたいのに行けないところ

・映画館 60%

・居酒屋 44%

・コンサートホール 30%

行ける場所が限られ、行動範囲は狭くなりがち

④妊娠中・子連れでの外出における不安・困難の実態

精神的・肉体的疲労が 気分的2大阻害要因

「迷惑をかけるのではないか」という
気疲れ 34%

外出すると身体が疲れる 30%

<不安・困難を感じる場所>

混み合った場所や交通機関

- ・人ごみを歩いている時 68%
- ・混雑した電車に乗っている時(都市部) 79%
- ・バスに乗っている時(都市部) 34%

階段・段差の多い場所

- ・段差の多い歩道のベビーカー移動 53%
- ・階段の上り下り 51%

ひと目が気になる場所

- ・喫茶店やレストラン 40%
- ・スーパーやデパート 31%

<実際にあった危険や困難>

実際に危険な目にあった 93%

- ・タバコの煙がただよってきた 56%
- ・利用しやすいトイレがない 51%
- ・階段の上り下りに苦労した 47%
- ・エレベータやスロープがない 39%
- ・混んだ車内でベビーカーをたたむ 32%
- ・子供が泣いた時、白い目でみられた 30%

妊娠・子連れ外出に対して暖かい社会とはいえない現状

⑤妊娠中・子連れでの外出に対する社会意識への要望

<周囲の人々への要望>

暖かい目で見守って！

子供がぐずった時、暖かい目で見
てほしい

迷惑がらないでほしい

やさしい言葉をかけてほしい

思いやりの心で接してほしい

子育ての大変さをわかってほしい

気分が悪いのを気遣ってほしい

危険防止に協力して！

自転車や自動車でスピードを出さ
ないでほしい

通りやすいように通路をあけてほしい

自転車などの駐輪で道をふさがな
いほしい

すれ違うときに譲ってほしい

ぶつからないように気をつけてほしい

妊娠・子連れを優先させ

公共交通機関で席を譲ってほしい

エレベーターを優先的に使わせてほ
しい

レジを優先的に使わせてほしい

トイレを優先的に使わせてほしい

荷物やベビーカーの移動に 手を差し伸べて！

階段でベビーカーを運ぶのを手伝っ
てほしい

電車やバスの乗り降りに手を貸し
てほしい

荷物が重い時や多い時、運ぶのを
手伝ってほしい

タバコを遠慮して！

歩きタバコをやめてほしい
近くでタバコを吸わないでほしい

+

お店や施設、公共交通機 関でのサービス改善を！

バリアフリー／エレベーター、スロープ
の設置

ベビーカーへの配慮がほしい

専用レジの設置

一時預かり場所の設置

配達や袋詰サービス

通路を広く

子供を走り回らせないで

子連れでも使いやすい清潔なトイレの設置

専用トイレの設置

オムツ替え、授乳室の設置

休憩場所の設置

分煙・禁煙の徹底

店員、駅員、バスの運転手のサー
ビス意識改善

⑥ マタニティマークに対する評価

他人には助けを求めにくい

どうしようもない時でも一人で解決しようとする
63%

妊娠中であることを気づいてほしい 45%

わかりづらい妊娠初期は特に必要 62%

大変な立場だと
周囲にさりげなくア
ピールできるツール
が必要

近くでタバコを吸わないでほしい 80%

席を譲ってほしい 57%

身体を押さないでほしい 66%

妊婦に配慮してほしい

利用したい
60%

社会浸透が不十分

知らなかった 45%

見かけたことがない 94%

使用したことはない 98%

知られていないのでつけても効果はない

もっと浸透させてほしい

積極的に導入、浸透させるべき 5
9%

自治体や病院で配布してほしい 5
8%

社会意識啓蒙の起爆剤とし
てのマタニティマーク運動